

人間発達学科

遊佐 重樹
牛渡 淳
岡 敬一郎
志賀 琢
鈴木 昌弘

三浦 主博
宮崎 正美
四家 昌博
千 凡晋
呂 光暁

仁藤 喜久子
松好 伸一
八木 孝憲
津田 綾子

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ ユ サ シゲ キ 氏 名 遊 佐 重 樹	職 名 教授 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 英語教授法修士 (大学名) University of San Francisco (取得年月) 1995 年 8 月
------------------------------	-----------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 英語の授業におけるプレゼンテーションソフトの活用(毎年、内容更新)	1997.4	英語の授業におけるプレゼンテーションソフトの活用に着目し、以来、全ての担当授業において、プレゼンテーションソフトで作成した自作教材を使用している。受講学生からの評価も大変良好である。(～現在)
2. 「学生授業評価優秀賞」受賞	2016.7.20	2015 年度の授業評価を基に、仙台白百合女子大学より受賞した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 1. 『はじめてのビジネス・イングリッシュ Business English for Beginners』	共著	2014.2	三修社	芳野総子 植竹由美子		
[論文] 1. “English Grammar for Teachers in Elementary Schools”	単著	1997.1	仙台白百合女子大学紀要 創刊号			79-87 頁
2. “The Introduction of Foreign Languages to Elementary Schools”	単著	1998.1	仙台白百合女子大学紀要 第 2 号			67-73 頁

3. 「Hawthorne とシェーカー —“The Shaker Bridal”を中心に—」	単著	2000.1	仙台白百合短期大学 カトリック研究所論集第 4 号			33-40 頁
4. “MA-rvellous”	単著	2005.1	<i>English Teaching Professionals</i> Issue 36			13-14 頁
5. “What Japan Could Learn from the History of Bilingual Education in California”	単著	2011.2	仙台白百合女子大学紀要 第 15 号			59-72 頁
6. “At What Age Should English Instruction Start in Japan?”	単著	2012.3	仙台白百合女子大学人間発 達研究センター紀要「人間の 発達」7 号			47-54 頁
7. “Introducing Swiss EOLE Approach into Japanese Elementary School English Classes”	単著	2018.3	仙台白百合女子大学紀要 第 22 号			49-61 頁
8. “Linguistic Human Rights of Non-Japanese Children Living in Japan”	単著	2020.3	仙台白百合女子大学紀要 第 24 号			107-120 頁
[実践報告] 1. “How Teacher’s Linguistics Caliber Can Improve Elementary School and Junior High School English Education”	単著	2022.2	仙台白百合女子大学教職課 程研究センター報 第 1 号			63-67 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 「小学校英語担当教員のための英文法」(単)	1996.9	東北英文学会第 51 回大会(秋田)
2. 「ホーソンとシェーカー ―“The Shaker Bridal”を中心に―」(単)	1997.7	日本ナサニエル・ホーソン協会仙台研究会(仙台)
3. 「プレゼンテーションソフトを使った英作文指導」(単)	1999.10	東北英文学会第 54 回大会(仙台)
4. “You Gotta Have “Ma”: Using Transition Effects as ‘Pause’”(単)	2001.10	Computer-Using Educators 学会全米大会 (アメリカ・カリフォルニア州・サクラメント)
5. “Paulinian Education in Japan”(共)	2008.5	第 4 回国際 SPC 教育者学会(フィリピン・パッシング)
6. “ <i>Nipo-Brasileiro</i> in Japan”(単)	2009.11	スタンフォード大学 Language, Equity and Educational Policy (LEEP) 研究会(アメリカ・カリフォルニア州・スタンフォード大学)
7. 「日系ブラジル移民の子ども達への教育問題」(単)	2010.5	仙台白百合女子大学人間発達研究センター「教育の公共性研究会」(仙台白百合女子大学)

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
California Teachers of English to Speakers of Other Languages Teachers of English to Speakers of Other Languages National Association for Bilingual Education 日本英文学会 東北英文学会 大学英語教育学会 日本カトリック教育学会 日本ナサニエル・ホーソン協会 アメリカ学会	国際渉外室委員(1999.4～2005.3)	1994.9 1994.10 1994.10 1996.5(2017.3.21 退会) 1996.6(2017.3.21 退会) 1996.6(2017.4.17 退会) 1996.9 1997.4(2017.2.22 退会) 1997.6

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
1.日本学術振興会	2020	科 研 費 基 盤 研 究(C)(一般)	「アジアの教育における仏系修道会の publicite 理念の影響に関する比較研究」	
2.日本学術振興会	2021	科 研 費 基 盤 研 究(C)(一般)	「アジアの女子教育におけるフランス系修道会の Saint Enfance 概念の影響」	

3. 特記事項

1996.4 仙台白百合短期大学英語科 兼任講師(～2003.3) 1996.8 仙台白百合女子大学パンフレットの英語への翻訳を行った。 1997.4 本学の教育理念および建学の精神に沿った海外研修旅行(イタリア・フランス巡礼旅行)を企画し、以後、毎年この研修旅行の企画、手配および業務を担当した。(～2007.3) (2007.4 からは、国際交流センターの業務として、2013.3 まで担当) 1997.8 仙台白百合短期大学パンフレットの英語への翻訳を行った。 1998.2 「イタリア・フランス巡礼旅行」旅行団を引率した。 1998.4 東北学院大学経済学部 非常勤講師(～2000.3) 1998.7.31-9.12 ドイツ・ハイデルベルク大学にてドイツ語研修に参加。初級外国語教授法の研究。同時に、早期外国語教育に関する資料を収集した。 1999.2 「イタリア・フランス巡礼旅行」旅行団を引率した。 1999.4 東北大学全学教育 非常勤講師(～2004.3) 2000.2 「イタリア・フランス研修旅行」旅行団を引率した。 2000.3 女子大、短大統合にともなう将来構想準備委員会作業グループのメンバーとして、新学科(国際教養学科)設置のための検討・準備を行った。 2000.4 東北大学全学教育 非常勤講師(～2009.3, 2010.4～現在) 2001.7.28-9.8 イタリア・ペルージャ大学にてイタリア語研修に参加。また、マルチメディア語学教育においてイタリアの最先端であるアッジジ語学学校にて Chiuchiu 校長(元ペルージャ大学外国語学部長)の授業を見学し、マルチメディアを利用した語学教授法のあり方について研究した。 2001.9 マルチメディア語学教育を充実させるため、旧来の LL 教室をマルチメディア教室に改装した。「私立大学等研究設備整備費等補助金」 2001.11 『一本の四季桜を愛でて』鈴木宣明編(聖母文庫)の中の『二千万分の一』71-80 頁を執筆。聖書を引用しながら、自分の留学体験について執筆した。 2002.4 イタリア語サークル『チャオ』の顧問として、約 50 名の学生に週 1 回、イタリア語の指導を行うとともに、イタリア文化などを教えている。(～現在) 2002.4 新設の国際教養学科で毎年実施される現地実習(短期海外研修旅行)の企画、手配および業務を担当した。(～2007.3) (2007.4 からは、国際交流センターの業務として、2009.3 まで担当) 2002.4 健康栄養学科の教育目標に合致した食文化研究の旅(短期海外研修旅行)を企画し、以後、毎年実施されるこの研修旅行の企画、手配、および業務を担当した。(～2007.3) (2007.4 からは、国際交流センターの業務として、2009.3 まで担当) 2002.5 仙台白百合女子大学新学科体制に関するパンフレットの英語への翻訳を行った。 2002.10 仙台白百合女子大学新学科体制発足記念式典・講演会(三笠宮崇仁・寛仁親王殿下)内容の英語への翻訳を行った。

2002.12 「食文化研究の旅:イタリア・スローフードの旅」旅行団を引率した。

2003.2 「仙台白百合女子大学カトリック研究所論集」第7号の中の『放蕩息子だった遊佐少年』149-155 頁を執筆。聖書を引用しながら、自分の人生経験について執筆した。

2003.4 姉妹校の仙台白百合学園高等学校がスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールに指定され、運営指導委員の委嘱を受けた。以後、同校の英語授業の運営に対する助言および指導を行った。(～2006.3)

2003.6 学報『リスブラン』第 42 号の編集長を務めた。

2003.12 学報『リスブラン』第 43 号の編集長を務めた。

2004.2 「仙台白百合女子大学カトリック研究所論集」第8号の中の『ご先祖様の不思議』183-188 頁を執筆。聖書を引用しながら、留学中の出来事について執筆した。

2004.4 (財)日本道路サービス機構の施設管理アドバイザーとして、高速道路サービスエリアのサービス向上に関する調査・助言を行った。(～2005.3)

2004.6 学報『リスブラン』第 44 号の編集長を務めた。

2004.8 高齢者福祉複合施設「カリタスの丘」パンフレット「創立を記念して」の英語への翻訳を行った。

2004.9 「国際教養現地実習:カリフォルニア大学リバーサイド校」旅行団を引率した。

2004.12 学報『リスブラン』第 45 号の編集長を務めた。

2005.2 「仙台白百合女子大学カトリック研究所論集」第9号の中の『貧しさがもたらす幸福』163-167 頁を執筆。聖書を引用しながら、自分の人生経験について執筆した。

2005.3 高齢者福祉複合施設「カリタスの丘」パンフレットの英語への翻訳を行った。

2005.6 仙台白百合女子大学に国際交流センターを設置するための検討を行い、規程を作成し、国際交流センター開設のための事前準備を行った。(～2007.3)

2005.6 学報『リスブラン』第 46 号の編集長を務めた。

2005.12 学報『リスブラン』第 47 号の編集長を務めた。

2006.2 「イタリア・フランス研修旅行」旅行団を引率した。

2006.3 学報『リスブラン』第 48 号(開学 10 周年記念特集号)の編集長を務めた。

2006.9 宮城県岩出山高等学校で実施された進路別ガイダンスの講師として、同校2年生を対象に大学における英語の模擬授業を行った。

2006.9 河北新報社による取材を受け、「小学校英語必修化」の内容で特集記事が掲載された。(河北新報 2006.9.15 夕刊)

2006.9 マルチメディア語学教育を充実させるため、普通教室5室(3・4号館)をマルチメディア教室に改装するためのコーディネーターを務めた。「私立大学等研究設備整備費等補助金」(～2007.9)

2007.2 「仙台白百合女子大学カトリック研究所論集」第11号の中の『聖書とアメリカ先住民』179-183 頁を執筆。聖書を引用しながら、アメリカ先住民の文化について執筆した。

2007.2 「食文化研究の旅:コルシカ島と北イタリアのスローフード」旅行団を引率した。

2007.3 河北新報社による取材を受け、「小学校英語の効果・今後の在り方」の内容で特集記事が掲載された。(河北新報 2007.3.27 朝刊)

2007.4 国際交流センターの初代センター長として、留学、海外研修旅行、国際交流活動等を組織として一元化し、その推進に努めた。カリフォルニア大学リバーサイド校、カナダ・ヴィクトリア大学、韓国・釜慶大学校との留学協定を締結し、本学初の交換留学生を迎え入れる手順を整えた。(～2009.3)

2007.6 国際交流センター ニュースレター『LA PIAZZA』創刊号の編集長を務めた。

2007.6 宮城県中新田高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。

2007.7 聖ウルスラ学院英智高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。

2007.7 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。

2007.11 宮城県中新田高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2007.11 国際交流センター ニュースレター『LA PIAZZA』第2号の編集長を務めた。
2008.4 東北こども福祉専門学院(豊岡短期大学 通信教育部)非常勤講師(～2009.3, 2010.4～現在)
2008.5 フィリピン・パッシングで開催された「第4回国際 SPC 教育者学会」に参加する日本代表団の団長を務めた。
2008.6 国際交流センター ニュースレター『LA PIAZZA』第3号の編集長を務めた。
2008.7 山形県天童高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2008.7 聖ウルスラ学院英智高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2008.7 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。
2008.10 石巻市立女子高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2008.10 宮城県角田高等学校で実施された進路別ガイダンスの講師として、同校1～2年生を対象に大学における英語の模擬授業を行った。
2008.11 国際交流センター ニュースレター『LA PIAZZA』第4号の編集長を務めた。
2009.2 「国際教養現地実習:シンガポール国立大学」旅行団を引率した。
2009.4 教員特別研修(サバティカル)(アメリカ・スタンフォード大学客員研究員等)(～2010.3)
2010.4 大学広報室長(～2012.3)
2010.7 聖ウルスラ学院英智高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2010.9 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。
2010.10 宮城県名取高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2011.6 学報『リスブラン』第59号の編集長を務めた。
2011.6 聖ウルスラ学院英智高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2011.7 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。
2011.10 宮城県名取高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2011.12 学報『リスブラン』第60号の編集長を務めた。
2012.3 学報『リスブラン』第61号(東日本大震災発生から1年:メモリアル号)の編集長を務めた。
2012.4 国際交流センター長(～2013.3)
2012.4 白百合女子大学(東京)非常勤講師(～現在)
2012.5 白百合女子大学(東京)で講演「被災地の1年」を行った。
2012.6 学都仙台サテライトキャンパス講座講師『やさしく学ぶ本格的英語発音講座』(6/2, 6/9, 6/16)
2012.10 宮城県名取高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2013.2 「国際教養学科・異文化体験:シンガポール」旅行団を引率した。(団長)
2013.2 「イタリア・フランス研修旅行」旅行団を引率した。(団長)
2013.6 学都仙台サテライトキャンパス講座講師『やさしく学ぶ本格的英語発音講座 初～中級』(6/15, 6/22, 6/29)
2013.7 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。
2013.10 常盤木学園高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。
2014.3 大成女子高等学校(茨城県水戸市)の生徒を対象に模擬授業を行った。

2014.5 仙台白百合短期大学・女子大学栄養士同窓会「ゆりの会」で講演会講師を務めた。『世界の食卓から見たもの What I have Seen from Tables Overseas』

2014.7 宮城県塩釜高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。

2014.11 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。

2015.4 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。

2015.7 仙台白百合学園小学校において、教育シンポジウム「CLIL 型学習について」の司会を務めた。

2015.9 岩手県立水沢高等学校において、スーパーサイエンスハイスクール SSH 特別講義を行った。

2016.7.23 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。

2016.10.18 盛岡白百合学園高等学校において、出張講座の講師を務めた。

2016.11.26 本学オープンキャンパスにおいて、一般入試(英語)のワンポイントアドバイスをを行った。

2017.6.22 聖ウルスラ学院英智高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。

2017.10.28, 10.29 本学オープンキャンパスにおいて、一般入試(英語)のワンポイントアドバイスをを行った。

2018.3.1 SHIRAYURI EXPRESS Vol.II, 2017-2018 に “Thinking of My Past and Future” を執筆した。

2018.3.1 「仙台白百合女子大学カトリック研究所講話集」第8号の中の『教師の 10 箇条』47-51 頁を執筆。聖書を引用しながら、教育者のあるべき姿について執筆した。

2018.3.20 第2回東北地区 SGH 課題研究発表フォーラム in 杜の都においてコメンテーターを務めた。

2018.5.25 St. Paul College, Paranaque から教職員 20 名が来学した際、本学側のコーディネーターを務めた。

2018.6.2 仙台白百合短期大学・女子大学栄養士同窓会「ゆりの会」で講演会講師を務めた。『世界の食卓から見たもの What I have Seen from Tables Overseas, Part2』

2018.6.23 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。

2018.10.17 授業動画テスト公開用撮影に協力した。(国際観光論)

2018.10.27, 10.28 本学オープンキャンパスにおいて、一般入試(英語)のワンポイントアドバイスをを行った。

2018.11.8 宮城県名取高等学校の生徒を対象に模擬授業を行った。

2019.3.1 「仙台白百合女子大学カトリック研究所講話集」第9号の中の『母の思い出「明日を思い煩うことなかれ」』25-28 頁を執筆した。

2019.10.5 夢ナビライブ講義(仙台会場)で講師を務めた。「子どもは語学の天才!? 児童英語教育とは」(夢メッセみやぎ)

2019.10.17 福島県立福島南高等学校において、「学びの森」の講師を務めた。

2019.10.26, 10.27 本学オープンキャンパスにおいて、一般入試(英語)のワンポイントアドバイスをを行った。

2020.3.1 「仙台白百合女子大学カトリック研究所講話集」第 10 号の中の『やさしさ KINDNESS』31-34 頁を執筆した。

2020.4.1 人間発達学科学科長(～現在)

2020.4.1 仙台市立市名坂小学校の 2020 年度学校評議員・学校関係者評価委員に就任した。

2020.6.12 学報『リスブラン』78 号用に学科長メッセージを執筆した。

2020.7.9 山形学院高等学校において、「ワンデーカレッジ」(1年生対象)の講師を務めた。

2020.9.6 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。

2020.9.17 秋田県立横手城南高等学校において、「進路ガイダンス」(1・2年生対象)の講師を務めた。

2020.8.24 宮城県利府高等学校から進路情報誌『利府 style』用の掲載文を依頼され執筆した。

2020.8.26 仙台市私立幼稚園連合会から情報誌用の掲載文を依頼され執筆した。

2020.10.15 福島県立福島南高等学校において、「学びの森」の講師を務めた。

2020.10.24, 10.25 本学オープンキャンパスにおいて、一般入試(英語)のワンポイントアドバイスをを行った。

2021.1.29 大崎中央高等学校の進学相談会(Zoom)で、教育分野希望者のグループとの話し合いで講師を務めた。

2021.4.1 仙台白百合女子大学同窓会報 50 号用にコロナ禍における学科の取り組みについて執筆した。

2021.4.1 仙台市立市名坂小学校の 2021 年度学校評議員・学校関係者評価委員に就任した。

2021.4.26 宮城県高等学校英語教育研究会(5/7)がコロナ禍で中止となり、講演内容をまとめた。(後日、研究会事務局から宮城県内全ての高等学校に送付された)

2021.6.10 学報『リスブラン』80 号用に学科長メッセージを執筆した。

2021.8 人間発達学科再編臨時委員会のメンバーに選ばれ、委員長を務めた。(～2022 年 5 月 25 日)

2021.10.14 福島県立福島南高等学校において、「学びの森」の講師を務めた。

2021.10.27 学校関係者評価委員を務めている仙台市立市名坂小学校の『ともそだ通信』への掲載文を執筆した。

2021.11.10 人間発達学科 FD において講師を務めた。『英語教育に生かす言語学の知識』

2022.3.1 「仙台白百合女子大学カトリック研究所論集」第 26 号の中の『人生山あり谷あり Life Has Its Ups and Downs』141-145 頁を執筆した。

2022.3.20 本学オープンキャンパスにおいて模擬授業を行った。

2022.3.30 2023 年度の新学科開設に伴い、文科省に教職課程の設置申請を行った。

2022.4.1 仙台市立市名坂小学校の学校運営協議会準備委員会委員に就任した。

2022.4.28 2023 年度の新学科開設に伴い、文科省大学設置室に届出申請を行った。

2022.5.13 宮城県高等学校英語教育研究会総会において、講演会の講師を務めた。『授業に活かす言語学のエッセンス』。

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	ウシ ワタ ジュン 牛 渡 淳	職 名 人間学部	教授 人間発達学科	取 得 学 位 (大学名)	博士(教育学) 東北大学	(取得年月) 1999 年 3 月
-------------	--------------------	-------------	--------------	------------------	-----------------	-------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1.教科書『新版 初めて学ぶ教育の制度・行政・経営論の出版』	2020.8.	教職科目「教育行政学」用のテキストとして作成・出版(編著者として)。全 393 頁。金港堂出版。
2 講義「児童文化論」	2002.4～ 現在に至る	3・4 年生の「児童文化論」の講義では、内容を「絵本論」として、「優れた絵本とは何か」をテーマに、学生の参加を主体とする授業を実践してきた。これは、世界の優れた絵本の中から、学生に個人またはグループで 1 冊の絵本を選ばせ、授業の前半で学生の発表を行わせるものである。発表 1 週間前には、学生との打ち合わせを行い、参照すべき基本文献・論文を指示し、また、関連するビデオ・CD 等・資料を学生に配布し、準備を行わせる。授業当日に、学生は、発表レジュメと資料をクラス全員に配布し、まず取り上げた絵本を朗読し、その後、作者、テーマ、ストーリー、絵、造形、幼児の受け止め方等について、調査内容を発表する。学生の発表後、牛渡が発表内容の補足を行い、クラスの学生全員で、その絵本の魅力についてディスカッションを行い、最後に、全学生に授業の感想と意見を提出させる。この授業によって、学生はあらゆる角度から絵本を分析する機会を得ることになり、幼児教育において最も重要な教材のひとつである絵本についての学生の関心を引き出すことに成功している。その結果、2020 年度の学生による授業評価では高い評価を受け、総合評価が 4.7 となり、特に、授業の分かりやすさや有益性が高い評価を受けた。
3.講義「教育学概論」	～現在に至る	人間発達学科 1 年生の必修科目。人間発達学科の専門科目としての教育学系科目の基礎科目として、また、教職課程の基礎科目としての両方の役割を持つ科目。学生がこれまで体験してきた家庭や学校での教育を、教育を提供する立場から考える視点、および、自己の体験を超えた広い視野から考えることができる視点を与えることを大きな狙いとしている。

4.講義「子ども論」	～現在に至る	内容としては、教育の本質と教師の役割について考える前半部と、教育目的や教育思想の歴史を通観する後半部とに分かれる。大学に入って初めて学ぶ教育学系科目であり、学生たちの意欲と満足度も高い科目となっている。テキストは『改訂 教育学原論』（牛渡著）を使用した。その結果、2020年度の学生による授業評価では高い評価を受け、総合評価が4.54となり、特に、授業の有益性(4.69)や計画性と目標の明確さ(4.67)が高い評価を受けた。 人間発達学科1年後期の科目。「子ども観」をテーマに、その研究の歴史と現代の子ども観について検討するもの。内容としては、まず、フィリップ・アリエスをはじめとする国外・国内の子ども観研究の成果を概観した後に、テキスト『アメリカ映画における子どものイメージ』（ジャクソン著、牛渡訳）を使用して、アメリカ人の子ども観の歴史を植民地期から1980年代までたどる。特に、アメリカ人の子ども観の歴史において重要となる映画を取りあげ、授業中に鑑賞・分析も行った。さらに、欧米各国のテレビの子ども番組に見られる子ども観や児童文学・絵本の中の子ども観についても紹介し、子ども観が、教育、児童文学、児童文化、児童福祉等と大きな関連性を持っており、重要なテーマであることを確認させた。その結果、2020年度の学生による授業評価では高い評価を受け、科目平均では4.55となり、特に、授業の計画性(4.66)や目標の明確さと教員の熱意(4.61)について高い評価を受けた。
5.講義「教育行政学」	～現在に至る	人間発達学科の専門科目であると同時に教職課程の必修科目。「教育の制度・社会・経営」分野に対応する科目。テキスト『初めて学ぶ教育の制度・行政・経営論』（牛渡編著）を使用しながら、①欧米と日本の学校制度の歴史、②主要関係法規、③教育の行政と経営、の三つの分野について講義を行った。
6.講義「教職論(小学校)」	～現在に至る	(1年生):小学校教員を目指す学生に対して、①教職観の変遷、②学校の特質と教師の職務内容、③子ども学びを支える人たち、④改めて教師の魅力とは、⑤労働市場の中の教師、について解説した。その結果、2020年度の学生による授業評価において高い評価を受け、科目平均で4.70、特に、授業の計画性や教員の熱意、学生への配慮等(4.69)について高い

7.「教職実践演習」	～現在に至る	評価を受けた。 本演習は、学生たちの4年間の教職課程の総まとめとして開設されている科目であり、4人の教員によるオムニバス形式の授業である。牛渡は、学生たちのこれまでの4年間の学びを共通シートに従って振り返えらせ、自分たちの教師としての力量について確認させた。
8.講義「子ども発達学」	2016年度～現在に至る	人間発達学科の4年次の必修科目。卒業を目前した学生が4年間の総まとめとして学ぶもの。Ⅰ. 子ども・青年の最終段階である「大学教育と教養の意義」、Ⅱ. 社会の変化と教育の課題(グローバル化、情報化)、Ⅲ. 世界の学校教育、の三点から授業を行い、学生の視野を広めた。その結果、2020年度の学生による授業評価で高い評価を受け、科目平均では4.52となり、特に、授業の目標の明確性と学習環境(4.64)、計画性と有益性(4.58)について高い評価を受けた。
9.「子ども発達総合演習Ⅲ・Ⅳ」	現在に至る	人間発達学科の専門科目で4年生の必修科目。毎年、3～10名が履修。教育と児童文化に関心のある学生が受講している。3年生のⅠとは異なり、このⅡでは、ひとつの決まったテーマについて、1年間関連文献をレジュメにまとめて報告するスタイルをとっている。最終的には、卒論またはゼミ論にまとめることになっている。2019年度の研究テーマとしては、ユネスコに関する研究、および、大学から社会へ(教員養成における教育実習・研修と民間企業のインターンと企業内研修との比較)であった。
10.「子ども発達総合演習Ⅰ・Ⅱ」	現在に至る	人間発達学科の専門科目で4年生の必修科目。毎年、3～10名が履修。教育と児童文化に関心のある学生が受講している。1年間の終わりに、学生が発表したレジュメを一冊のファイルにまとめて、『活動報告書』を作成している。

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1.増補改訂版 初めて学ぶ教育の制度・行政・経営 論	単 編 著	2017.4.	金港堂		編著者:牛渡淳、執筆 者 13 名	第 9 章担当 (pp.177 ～ 193)
2.教師教育研究ハンドブック	共	2017.9.	学文社		編者:日本教師教育学 会、執筆者 98 名	pp.22-25 担当
3.平成 29 年改訂小学校教育課程実践講座 総則	共	2017.10.	ぎょうせい		編著者:天笠茂、執筆 者 14 名	第 3 章担当 (pp.59～72)
4.平成 29 年改訂中学校教育課程実践講座 総則	共	2017.10.	ぎょうせい		編著者:天笠茂	第 3 章担当 (pp.59～72)
5.2019 年度版 必携教職六法	共	2018..2.	協同出版		監修:若井弥一	「教職課程認 定」担当 (pp.866～867)
6.講座 現代の教育経営 第 4 巻・教育経営にお ける研究と実践	共	2018.6.	学文社		編者:日本教育経営学 会	第 4 巻編集委 員、第 13 章担 当 (pp.154 ～ 166)
7.講座 現代の教育経営 第 5 巻教育経営ハンド ブック	共	2018.6.	学文社			pp.158～159
8.2020 年度版 必携教職六法	共	2019.2.	協同出版		監修:若井弥一	「教職課程認 定」担当 (pp.845～846)
9.2021 年度版 必携教職六法	共	2020.2.	協同出版		監修:高見茂、執筆	「教職課程認

10.新版 初めて学ぶ教育の制度・行政・経営論	単編	2020.8.	金港堂		者:55 人	定」担当 (pp.826-827、 全 1000 頁)
11.教員養成教育の質保証への提言	共	2020.11.	ミネルヴァ書房		編著者:牛渡淳、執筆 者 13 名	第 9 章担当 (pp.181-198)
12. 2022 年度版 必携教職六法	共	2021.1.	協同出版		企画:大学基準協会 編著者:早田幸政	第 3 章「教師 教育 改 革 の 現 状 と 課 題」 (pp.46-63)
13.現代アメリカ教育ハンドブック第 2 版	共	2021.10.	東信堂		監修:高見茂、執筆者 57 人	pp.839-840 (全 1033 頁)
14.2023 年度版 必携教職六法	共	2022.1.	協同出版		アメリカ教育学会編	pp.91-100
[論文]					監修高見茂、執筆者 57 人	pp.863-865
1.求められる「校長の質向上に関する指標」「研修 計画」は	単著	2017.6.	『教職研修』			pp.88～89
2.管理職に求められる資質・能力をどう明確化す るか	単著	2017.9.	『教職研修』			pp.98～99
3.文科省による「教職課程コアカリキュラム」作成 の経緯とその課題	単著	2017.9.	『日本教師教育学会年報』			pp.28-36
4.新しい初等中等教員養成システムのあり方につ いて	単著	2017.12.	『私学経営』No.514			pp.29-35

5. 教養とは何か	単著	2018.3.	『論集』第 22 号			pp.57-98
6. 文科省における「教職課程コアカリキュラム」作成の動向と課題について	単著	2018.3.	『教師教育研究』第 31 号			pp.149-157
7. 校長の「育成指標」「研修計画」を読み解く	単著	2018.5.	『教職研修』			pp.96-97
8. これからの学校管理職に求められるリーダーシップ	単著	2018.9.	『リーダーズ・ライブラリー』			pp.38-39
9. 近年の教師教育改革のねらいと課題ー指標・協議会・コアカリキュラムを中心にー	単著	2018.9	『2017 年度金沢大学教職大学院フォーラム報告書』			pp.5-21
10. 教員育成協議会・育成指標の動向について	単著	2018.4.	『会報』第 73 号			pp.41-47
11. 「子どもの貧困」研究の動向と課題ー社会学と教育学からのアプローチ	共著	2019.3.	『人間の発達』第 13 号	牛渡亮		pp.23-32
12. 千葉大学大学院の特色と期待	単著	2019.2.	『特別講義 千葉県の教員養成を考えるー養成と育成における教職大学院の役割とはー』			pp.31-45
13. 「子どもの貧困」と教育学研究の課題(第 77 回大)会報告)	共著	2019.3.	日本教育学会編『教育学研究』	佐藤修司		pp.76-83
14. 教員育成協議会の全国的な設置状況の特色と課題	共著	2019.3.	科研費報告書『教員育成に関わる大学・教育委員会関係の構築に関する研究』、平成 28~30 年度基盤研究 C、代表 森山賢一	原田恵理子、 太田拓紀、田 子健、森田真 樹		pp.47-62
15. 中教審「諮問」から探る新時代の学校(4)教師の在り方、教育環境の整備	単著	2019.8.	『教職研修』			95-97 頁
16. 新たな教育課題に対応した教員の養成・研修ー	単著	2019.3.	中国・四国地区私立大学教職			36-41 頁

育成協議会・育成指標の全国的動向と課題を中心にー			課程研究連絡協議会編『会報』			
17.教師教育改革と私立大学の課題	単著	2019.9.	日本教師教育学会年報第 28 号			52-59 頁
18.私立大学教職課程の質の保証に向けて	単著	2019.11.	『シナプス』、No.71			22-25 頁
19.教職課程質保証の政策動向と課題	単著	2019.10.	東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会編『東海北陸教師教育研究』第 33 号			3-9 頁
20.思い出すこと生きること	単著	2019.3.	仙台白百合女子大学カトリック研究所『講話集』第10号			77-80 頁
21.地方自治体における教員育成協議会と教員育成指標作成の動向と課題	共著	2020.3.	仙台白百合女子大学紀要第24号			1-12 頁
22.科研報告書『スタンダードに基づく教員・学校管理職の質保証と育成支援システムの日米比較研究』	単編	2021.3.	日本学術振興会科研費基盤研究(B)最終年度報告書		編著者:牛渡淳、執筆者名	全 126 頁
23.米国カリフォルニア州における教員スタンダードのガバナンスに関する研究ー教職の専門職的自律性と民主性の関連性を中心にー	共著	2022.9.	日本教師教育学会年報 30 号	櫻井直輝、木場裕紀		pp.148-158
24.教職研究における「エートス研究」の意義と可能性ーマックス・ウェーバー、マートン、ローティを手掛かりとしてー	共著	2021.10.	仙台白百合女子大学人間発達センター紀要『人間の発達』第 15 号	牛渡亮		pp.7-16
25.私の研究史	単著	2021.10.	日本学校教育学会編『学校教育研究』第 36 号			pp.166-167
26.東日本大震災の記憶	単著	2021.11.	仙台白百合女子大学編『東日本大震災の記憶』			p.76

[書評]						
	1.現代に生きるマリア・モンテッソーリの教育思想と実践(早田由美子、相良敦子他著)	単著	2016.9.	『カトリック教育研究』第 34 号		pp.76-77
	2.世界のテストガバナンスー日本の学力テストの行く末を探るー	単著	2021.9.	日本国際教育学会編『国際教育』第 27 号		pp.82-86

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
なし						

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1.「教員育成指標とは何か、それをどのように作成し、活用すべきか」	2016.8.	文部科学省主催「教師力向上パネルディスカッション:教育委員会と大学の連携による教師教育のあり方について」(於:文部科学省)
2.「教職課程のコアカリキュラムについてー文科省の検討会の進行状況と課題ー」	2017.3.	全国私立大学教職課程協会研究委員会(於:玉川大学)
3.「文科省における「教職課程コアカリキュラム」作成の動向と課題について」	2017.4.	日本教師教育学会理事会発表(於:明治大学)
4.「教育委員会と大学との連携によって教員の資質・能力はどのように変わったかー新しい教師教育制度改革のねらいと仕組みを中心にー」	2017.8.	日本学校教育学会第 32 回大会、シンポジウム(於:上越教育大学)
5.「文科省における「教職課程コアカリキュラム」の作成過程と問題点」	2017.8.	日本教育学会第 76 回大会課題研究(於:桜美林大学)
6.「育成協議会の全国的な設置状況と私立大学の役割」	2018.5.	全国私立大学教職課程協会第38回研究大会シンポジウム(於:酪農学園大学)
7.「大学の教員養成における新たな質保証の仕組みと課題」	2018.5.	高等教育質保証学会大会シンポジウム(於:中央大学)

8.「教員育成協議会の全国的な設置状況の特色と課題」	2018.9.	日本教師教育学会大会発表(於:東京学芸大学)
9.「再課程認定を経たこれからの教職課程づくり」	2018.11.	全国私立大学教職課程協会研究交流集会シンポジウム(於:東北学院大学)
10.「千葉大学教職大学院の特色と期待～近年の教師教育改革の動向を踏まえて～」	2019.2.	千葉大学大学院教育学研究科シンポジウム「千葉県の教員養成と教職大学院の役割を考える」(於:千葉大学)
11.教職課程コアカリキュラムの実施状況と課題	2019.5.	全国私立大学教職課程協会 2019 年度研究大会シンポジウム「新教職課程カリキュラム運営の課題」(於:大阪ガーデンパレス)
12.教職課程コアカリキュラム～作成経緯・ねらい・構造・課題～	2019.5.	全国私立大学教職課程協会 2019 年度研究大会報告(於:近畿大学)
13.教師教育の高度化と地域教育課題への対応ー中教審答申の三つの改革原理と教職大学院の役割を中心にー	2019.8.	日本学校教育学会第 34 回大会 課題研究(金沢学院大学)
14.教職課程質保証の課題	2019.9.	日本教師教育学会第 29 回研究大会 特別課題研究Ⅱ (岡山大学)
15.Reform of Teacher Education in JapanーTrends and Issuesー	2020.2.	Teacher Education Exchange Symposium at University of California, Santa Barbara
16.カリフォルニア州における教員スタンダード-ガバナンスと内容に着目して-	2020.9.	日本教師教育学会第 30 回大会自由研究発表(櫻井直輝、木場祐紀との共同発表。牛渡が筆頭。)
17.教職課程コアカリキュラムの再吟味-政策と研究の関わりを問う-	2020.9.	日本教師教育学会第 30 回大会特別課題研究Ⅱ
18.教職課程質保証の政策動向	2021.2.	京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会
19.教職課程の質保証と第三者評価の課題	2021.4.	地域科学研究会/高等教育情報センター主催セミナー
20.今後の教師教育のグランドデザインを考えるための論点整理と展望	2021.6.	日本教師教育学会課題研究Ⅱ 統括グループ第一回研究会
21.今後の教師教育のグランドデザインを考えるための論点整理と展望(修正)	2021.8.	日本教師教育学会課題研究Ⅱ 第七回研究会

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職等	入会年月(西暦)
1. 日本教育経営学会	会長(2012.6～2015.6.)、理事(1989.5.～2021.6.)、 実践推進委員長(2009.6～2012.6.)	1983
2. 日本教育行政学会	理事(～2007)	1978
3. 日本教師教育学会	理事(～現在に至る)、全国理事(2017.9～現在)、 研究部長(2017.9～2020.9)、研究推進委員長 (2020.9～現在)、会長代行(2020.9～現在)	1992
4. 日本教育学会	理事(2015.8.～2021.8.)	1988
5. 日本カトリック教育学会	理事(～2013.9.2016.9～現在に至る)、紀要編集 委員、第33回大会実行委員長	1989
6. 日本学校教育学会	理事(～現在に至る) 年報編集委員 第23回大 会実行委員長	1979
7. 日本国際教育学会	理事(～2014.9.) 第21回大会実行委員長	2010
8. 東北教育学会	理事(～2016.3.) 紀要編集委員長(～2010)、第 70回大会実行委員長(2013.3)、会長(2019.3～現 在に至る)	1997
9. 東北教育実践・経営学会	理事 副会長	2006
10. 東北アメリカ学会	会長(2014.7.～現在に至る)、	1981
11. 日本比較教育学会	2020.3.退会	1981
12. 日本児童文学学会		1994
13. 日本アメリカ教育学会		1989

14.絵本学会		2
---------	--	---

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
1.日本学術振興会	2016		「教員育成」に関わる大学・教育委員会関係の構築に関する研究(研究分担者)	429 万円
2.日本学術振興会	2018		スタンダードにもとづく教員・学校管理職の質保証と育成支援システムの日米比較研究(研究代表者)	944 万 5 千円
3.日本学術振興会	2018		校長のリーダーシップ発揮を促進する制度的・組織的条件の解明と日本の改革デザイン(連携研究者)	
4.日本学術振興会	2021		教員スタンダードを核とする包括的教師教育システムに関する総合的研究	

3. 特記事項

(客員教授) 1.東京学芸大学客員教授(2010.10.-2013.3.) (非常勤) 1.東北大学教育学部「教育行政学講義Ⅰ」(2009-2014.3.) 2.東北大学教育学部「教育制度論」(2013.4.-2014.3.) 3.白百合女子大学(東京)「教育原理」(2016.4.-現在に至る) 4.白百合女子大学(東京)「教育の制度と経営」(2016.4.-2020.3) (講演会・研修会等) 1.「教育政策の動向と学校経営」、上越教育大学「広い視野と経営感覚を持つミドルリーダーの育成」研修会、於：新潟県教育センター(2015.7.) 2.「私の仕事、そしてこれからの教育」、仙台白百合学園合同研修会、於：仙台白百合学園(2015.11.) 3.宮城教育大学「教員の資質能力向上フォーラム」、指定討論者(2015.12.) 4.「これからの教育改革とSGHの可能性～中央教育審議会の動向を踏まえて～」、仙台白百合学園中学・高等学校 第1回SGH中間報告会(2016.2.) 5.「教養とは何か」、仙台白百合女子大学後援会講演会(2016.6.)

- 6.「教養とは何か」、仙台白百合女子大学カトリック研究所研究会(2016.11.)
- 7.「協議会のあり方について」、独立行政法人教職員養成機構主催、平成29年度全国教育(研修)センター等協議会・教職大学院セミナー・パネルディスカッション(於:つくば市、教職員支援機構)(2017.4.)
- 8.「教員の資質向上に関する協議会及び指標のありかたについて」、独立行政法人教職員支援機構主催、育成協議会・育成指標セミナー・パネルディスカッション(於:東京、一橋会館)
- 9.「教員の資質向上に関する協議会及び指標のありかたについて」、独立行政法人教職員支援機構主催、育成協議会・育成指標セミナー・パネルディスカッション(於:岡山、岡山コンベンションセンター)(2017.4.)
- 10.「初等中等教員の教員養成システムと教職課程の今後」、地域科学研究会高等教育情報センター主催セミナー「初等中等教員養成の新展開と質保証」(於:東京、剛堂会館)(2017.4.)
- 11.「絵本の魅力を探るー子どもの視点・大人の視点」、宮城県教育委員会主催 平成29年度子ども読書活動指導者養成講座(於:宮城県自治会館)(2018.1.)
- 12.「教師力向上をめざす教員育成指標ーそのねらいと課題ー」、福島大学教職大学院主催、2018 教育実践福島ラウンドテーブル(2018.2.)
- 13.「教員育成指標と教職課程コアカリキュラムが目指すものーそのねらいと課題ー」、秋田大学教職大学院主催、第2回あきたの教師力高度化フォーラム(2018.2.)
- 14.「近年の教師教育改革のねらいと課題ー指標・協議会・コアカリキュラムー」、2017 年度金沢大学教職大学院フォーラム(2018.3.)
- 15.「私の研究人生」、一般社団法人 e サロン主催(於:金沢大学)(2018.3.)
- 16.「教員育成指標のねらいと課題ー中堅・若手の育成を中心にー」、上越教育大学講演(2018.11.)
- 17.「教育の未来と教師教育」、帝京大学教職大学院 10 周年記念式典における講演、於:帝京大学(2018.12.)
- 18.「新たな教育課題に対応した教員の養成・研修ー育成協議会・育成指標の全国的動向と課題を中心にー」、中国・四国地区私立大学教職課程連絡協議会 2018 年度秋季研究協議会講演、於:広島ガーデンパレス(2018.12.)
- 19.「教職課程質保証の政策動向と課題」、東海・北陸地区教職課程研究連絡懇談会、2019 年度第一回定例研究会講演、於:愛知大学名古屋キャンパス、(2019.5.)
- 20.「近年の教育改革と学校管理職への課題ー育成指標・チーム学校を中心にー」、令和元年度宮城県石巻地区副校長・教頭会第2回総会講話
- 21.「教職課程質保証の政策動向」、京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会講演。(2021.2.)
- 22.「教職課程の質保証と第三者評価の課題」、地域科学研究会/高等教育情報センター主催セミナー(2021.4.)

(自治体の審議委員等社会的活動)

- 1.宮城県大崎市学校教育環境整備指針審議会副委員長(2011.7.ー現在に至る)
- 2.全国私立大学教職課程研究連絡協議会、「教員養成制度検討委員会」委員(2011.6.ー現在に至る)
- 3.仙台市教育センター運営懇話会委員(2013.8.ー現在に至る)
- 4.仙台市校長選考面接官(2013.8.)
- 5.仙台市教頭選考面接官(2013.11.)
- 6.教員養成評価機構「教員養成教育アクレディテーション検討会議」委員(2013.11-2014.1)
- 7.学校法人白百合学園理事、評議員(2014.5.～2017.3)
- 8.社会福祉法人仙台白百合会理事(2014.10～2017.5.)
- 9.中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会臨時委員第8期(2015.3.～2017.2.)
- 10.仙台市教育委員会「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」に係る学識経験者(2015.6～現在に至る)
- 11.石巻専修大学自己点検評価委員会外部評価委員(2015.4.～現在に至る)

- 12.一般社団法人全国私立大学教職課程協会業務執行理事、及び、研究委員会委員長(2016.5.～2021.3.)
13. 中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会臨時委員再任(第9期)(2017.3.～現在に至る)
- 14.仙台市立仙台工業高等学校 学校評議員(2018.4～現在に至る)
- 15.一般社団法人全国私立大学教職課程協会特別委員会委員(-現在に至る)

(大学の管理運営上の実績)

- 1.人間学部長(2004.4-2012.3)
- 2 学校法人白百合学園 評議員(2004.4-2012.4)
- 3.大学院・学科再編プロジェクト委員長(2006.7-2008.5)
- 4.大学院設置準備室長(2006.11.-2008.5)
- 5.学科再編会議委員長(2010-2011.7)
- 6.学科再編準備委員会委員長(2011.7.-2012.3)
- 7.学長(2014.4.-2017.3.)
- 8.学校法人白百合学園理事(2014.5.～2017.3.)
- 9.人間発達学科長(2018.4.～現在に至る)

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	オカ ケイイチロウ 岡 敬一郎	職 名 教授 人間学部人間発達学科	取 得 学 位 修士(教育学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 1999 年 3 月
-------------	--------------------	----------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1 教育方法の実践例		
・多様な資料の活用	2017 年度～	初めて教育学を学ぶ学生に対しては、教育学に関心を持たせるとともに、講義の内容を現代的課題と結びつけていくことが必要と考える。そこで、新聞・雑誌記事や録画したテレビ番組などを活用して、学生が教育に関するさまざまな話題に触れられるように配慮してきた。
・グループ学習の導入	2017 年度～	如何に優れた講義内容であっても、一方的に解説したのでは学生の意欲を喚起することはできないと考える。そこで、受講者を数名ごとのグループに分け、各グループに調査課題を与えたとともに、調査結果を発表させることによって、学生は積極的に講義に取り組むことができるようになった。
・学生が自ら考える講義の実施	2017 年度～	多数の受講者がいる講義において、学生個人の意見を反映させることは容易ではない。そこで、講義中にテーマを与えてグループで討論させることによって、自己の意見を述べ合い、また他人の意見からも学ぶことができた。さらに、講義の最後に小レポートを課して、講義内容を振り返ることによって、学生が自らの思考を深めることができるようになった。
・ゼミにおける学校訪問	2017 年度～	ゼミに所属する学生が見聞を広め、将来の教師としての活動に活かしてもらうことを目的として、特色ある学校を訪問している。訪問校については、学生の希望に基づいて、教科教室型の中学校、外国につながる児童が半数以上在籍する小学校などを選定し、連絡・調整を実施してきた。学習の成果をまとめ、大学祭の企画の一つとして発表させることにより、学生は理解を深め、自らの進路に対する思いを新たにしている。
・学生による授業評価アンケート	2017 年度～	学生による授業評価アンケートでは、概ね高評価を得てきた。総合評価は 3 点満点中 2.8 点前後で推移している。とくに、「授業に教員の誠実さや真剣さが感じられる」「この授業を受けて良かった」の項目の評点が高かった。
・授業支援システムの活用	2020 年度～	コロナ禍では講義中のコミュニケーションに制限がかかってしまうため、respon や manaba などの授業支援システムを活用して、学生間の意見共有や学生の理解度の把握を図っている。

2 作成した教科書・教材 ・学生による自主学修の報告集	2017 年度～	上述のグループ学習の成果を報告集としてまとめ、受講者全員に配布するとともに、講義中に逐一解説を加えた。これによって、学生は自らの学習が講義に生かされているという実感を得るとともに、学習の成果を相対化し、理解を深めることができた。
--------------------------------	----------	--

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
・学校現場実習における学生支援の現状と課題－ 学生の運営参加に着目して－	共	2022.3	仙台白百合女子大学紀要第 26 号	荒井明子 関塚麻由		57-67
・教職実践演習の実践－保護者・地域住民対応に 着目して－	単	2022.2	仙台白百合女子大学教職課 程研究センター報第 1 号			35-37
・教育実習の事前事後指導の実践－異学年交流に 着目して－	単	2022.2	仙台白百合女子大学教職課 程研究センター報第 1 号			31-33
・学校現場実習における学生の期待・不安状況の 分類化－実習に対する学生の意識調査から－	共	2021.3	秀明大学紀要第 18 号	関塚麻由 荒井明子		65-76
・射水郡長期の南原繁における教職観－「何たるべ きか」の分析を通じて－	単	2021.3	仙台白百合女子大学紀要第 25 号			23-31
・書評 高橋寛人著『教育公務員特例法制定過程 の研究－占領下における教員身分保障制度改革 構想』	単	2020.10	教育制度学研究第 27 号、日 本教育制度学会			274-279
・教育実践演習の効果的展開に向けた予備的考察 －本学学生へのアンケート調査を通じて－	共	2019.3	秀明大学紀要第 16 号	荒井明子 関塚麻由		13-22
・戦後教育行政通知文書写綴目録	共	2018.3	平成 27 年度～平成 29 年度日	荒井英治郎		

			本学術振興会科学研究費助成事業「エビデンスに基づく政策形成・評価に資する教育政策情報のアーカイブ化に関する研究」(挑戦的萌芽研究)成果報告書	植竹丘 辻村貴洋 雪丸武彦		
・南原繁の射水郡立農業公民学校設立構想の研究－戦後地方教育行政改革構想の思想的背景の視点から	単	2016.3	秀明大学紀要第 13 号			1-17
・会員制による生涯学習施策の展開－北海道滝川市を事例として－	単	2010.9	『生涯学習－多様化する自治体施策－』東洋館出版社		大桃敏行・背戸博史 編、14 名	198-212
・戦後改革期の田中耕太郎の教育権論における両親－教師－国家の関係の再検討	単	2006.2	東北教育学会研究紀要第 9 号			29-42
・田中耕太郎の「教育権の独立」論の再検討－中央・地方教育行政と教師との関係に着目して－	単	2001.11	日本教育行政学会年報第 27 号			83-94

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
・学校現場実習に対する学生の意識の変化－1 年間の追跡調査のデータを用いて－(関塚麻由、荒井明子、岡敬一郎)			2019.9	日本教師教育学会第 29 回研究大会(岡山大学)		
・学校現場実習の効果的実施に向けた学生支援(荒井明子、氏家靖浩、岡敬一郎、関塚麻由、大泉徹)			2019.8	日本学校教育相談学会第 31 回研究大会(東北福祉大学)		

・秀明大学学校教師学部における教職インターンシップの現状と課題－教育実践演習Ⅰ・Ⅱを中心に－	2019.2	千葉・茨城地域私立大学教職課程研究連絡協議会 2018 年度第 2 回研究会(秀明大学)
--	--------	--

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本教育学会	紀要編集委員(2019.4～)	2003.3
日本教育行政学会		1999.4
日本教育制度学会		2000.7
教育史学会		1999.4
日本教師教育学会		2018.9
東北教育学会		1999.4

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
・科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)	2020-2023 年度	基 盤 研 究 (C)・ 研究代表者	戦後改革期における教育の専門的自律性論議に関する実証的研究	
・科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)	2015-2017 年度	挑 戦 的 萌 芽 研 究・連携研究者	エビデンスに基づく政策形成・評価に資する教育政策情報のアーカイブ化に関する研究	

3. 特記事項

・全国私立大学教職課程協会 理事(2019.5-2020.12) ・宮城県教職員育成協議会養成部会 構成員(2019.4-) ・仙台市教員育成協議会 会員(2019.4-) ・仙台白百合女子大学教職課程研究センター センター長(2019.4-) ・印西市教育振興基本計画学校教育編検討委員会 委員長(2016.4-2018.3) ・印西市教育振興基本計画策定委員会 委員(2016.4-2018.4)

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	シ ガ ミガク 志 賀 琢	職 名 人間学部	特任教授 人間発達学科	取 得 学 位 (大学名) 東北学院大学	工学士 (取得年月) 1982 年 3 月
-------------	------------------	-------------	----------------	-------------------------	--------------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
〇いじめ・不登校に対する適切な支援のあり方	2015年4月～	・現在、仙台市内の喫緊の課題となっている、いじめと不登校に対して、実際に学校現場で扱っている困難ケースを中心にどのように支援すればよいか、を関係機関との連携を含め、様々な視点から適切な支援のあり方を探ってきた。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
・大学における生徒指導実践力を育成するための 一試み ―いじめ対応力の向上を目指して―	単著	2022年2月	仙台白百合女子大学 教職課程研究センター報・第1号			pp.13-18
・算数教育における指導力を育成する大学授業の あり方 ―模擬授業に焦点を当てて―	単著	2022年2月	仙台白百合女子大学 教職課程研究センター報・第1号			pp.49-54

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項
・仙台市いじめ防止等対策検証会議委員(2019年度) ・仙台市発達障害児教育専門家チーム委員(2020年度～)

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ スズキ マサヒロ 氏 名 鈴木 昌弘	職 名 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 教育学士 (大学名) 大阪教育大学 (取得年月) 1985 年 3 月
----------------------------	--------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
テキスト分析による論理的な物語の読解の教授学習方略	2016 年 4 月～	物語における場面ごとの主人公の言動と気持ちの確認やクライマックスの前後から主人公の変容から主題を求める教授学習は、真の主題を見逃し児童生徒の学習意欲を損なっている。それを克服するために、一見無関係であり矛盾する表現に着目し止揚(総合)する方略を実践研究し、それを小中学校の教員に指導し、今年度から学生に指導している。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] ・メロスは何故少女に赤面するのか～「テキスト分析」でつくる文学の授業	単著	2020. 4	三省堂			全 157 頁
[論文] ・「対話的な学習」と何か。あるいは国語教師の存在理由について	単著	2018. 3	大阪教育大学国語教育学会 『国語と教育』2018 年 第 43 号			72－91 頁 (20 頁)

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
・「人間の本性に根ざした所属感・貢献感を賦活する生徒集団づくり～「荒れ」の克服から「不登校」「低学力」の改善へ～」第42回学校づくり研究会 ・「対話『的』な学習を支えるもの～「少年の日の思い出」テキスト分析を通して～」第53回 大阪教育大学国語教育学会	2020年3月21日	大阪大学中之島センター
	2017年8月5日	大阪教育大学柏原キャンパス

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本国語教育学会	会員	2021年8月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

--

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ ミウラ キミヒロ 氏 名 三 浦 主 博	職 名 教 授 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 修 士 (教育学) (大学名) 東北大学大学院 (取得年月) 1995 年 3 月
------------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
・子どもとかかわる人のための心理学 ―保育の心理学、子ども家庭支援心理学、子どもの理解と援助への扉―(萌文書林)	2020 年 10 月	保育士養成課程における「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「子どもの理解と援助」の教科書
・保育実践に求められる子育て支援(ミネルヴァ書房)	2019 年 10 月	保育士養成課程における「子育て支援」の教科書
・図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉(萌文書林)	2019 年 9 月	保育士養成課程における「子ども家庭福祉」の教科書
・演習・保育と子育て支援(みらい)	2019 年 8 月	保育士養成課程における「子育て支援」の教科書
・子ども家庭支援の心理学(建帛社)	2019 年 2 月	保育士養成課程における「子ども家庭支援の心理学」の教科書
・保育実習指導のミニマムスタンダード ver.2 ～「協働」する保育士養成(中央法規)	2018 年 7 月	保育士養成課程における「保育実習」「保育実習指導」のガイドライン
・改訂 なぜからはじめる保育原理[第 2 版](建帛社)	2018 年 4 月	保育士養成課程における「保育原理」の教科書
・つながる保育原理(みらい)	2018 年 3 月	保育士養成課程における「保育原理」の教科書

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 子どもとかかわる人のための心理学 ―保育の心理学、 子ども家庭支援心理学、子どもの理解と援助への扉―	共著	2020 年 10 月	萌文書林		沼山博・三浦主博 編 著・他 11 名共著	111-145, 162-165, 173-180
保育実践に求められる子育て支援	共著	2019 年 10 月	ミネルヴァ書房		小原敏郎・三浦主博編 著・他 14 名共著	18-28, 110-119
図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉	共著	2019 年 9 月	萌文書林	直島正樹・河 野清志編著・ 三浦主博 他 4 名共著		-163
演習・保育と子育て支援	共著	2019 年 8 月	みらい		小原敏郎・橋本好市・ 三浦主博 編著・ 他 10 名	29-40
子ども家庭支援の心理学	共著	2019 年 2 月	建帛社	本郷一夫 神谷哲司 編 著・三浦主博 他 10 名 共著		126-135
保育実習指導のミニマムスタンダード ver.2 ～「協働」する保育士養成	共著	2018 年 7 月	中央法規	(一社)全国保 育士養成協議 会編集／三浦 主博 他 13 名 共著		161-168
改訂 なぜからはじめる保育原理〔第 2 版〕	共著	2018 年 4 月	建帛社	池田隆英・上 田敏文・楠本 恭之・中原朋 生 編著／三 浦主博他 9 名		33-42

つながる保育原理	共著	2018 年 3 月	みらい	共著	井上孝之・小原敏郎・ <u>三浦主博</u> 編著・ 他 13 名	28-29, 170-189
[論文] オンラインでの対話による保育実習の振り返りに関する検討	共著	2022 年 3 月	東北福祉大学教職研究 2021 年	利根川智子, 音山若穂, 織田栄子, 上村裕樹, <u>三浦主博</u>		153-168
「言葉遊び」を取り入れた授業の工夫 —「保育内容(言葉)」の授業実践より—	共著	2021 年 3 月	東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部教職課程センター報 5 号	<u>三浦主博</u> , 佐藤深雪		79-82
対話的アプローチによる実習の振り返りの授業実践とその課題	共著	2020 年 3 月	東北福祉大学教職研究 2019 年	利根川智子, 音山若穂, <u>三浦主博</u> , 和田明人, 上村裕樹, 織田栄子		143-162
教職実践演習におけるグループアプローチの活用と効果について(4)	共著	2020 年 3 月	聖霊女子短期大学紀要 48 号	織田栄子, 利根川智子, 音山若穂, <u>三浦主博</u> , 上村裕樹		1-10
保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラム開発の試み(3)	共著	2020 年 2 月	東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要 50 号	三浦主博, 音山若穂, 利根川智子, 上村裕樹, 織田栄子		155-160
保育(施設)実習の事前事後指導の実際と課題 —全国保育士養成協議会東北ブロック内における調査より—	共著	2019 年 8 月	福祉科学研究 第 8 号	時本英知, 瀬尾知子, <u>三浦主博</u> , 利根川		69-82

対話的アプローチが実習事後指導における協同性に及ぼす影響についての一検討	共著	2019 年 3 月	東北福祉大学研究紀要第 43 卷	智子, 竹之下典祥, 福田真一, 細川梢, 日野さくら, 石森真由子, 大迫章史	35-50
保育(施設)実習指導の一環としてのボランティア活動の実際ー全国保育士養成協議会東北ブロック内における調査より(2)ー	共著	2019 年 3 月	青森中央短期大学研究紀要第 32 号	利根川智子, 音山若穂, <u>三浦主博</u> , 和田明人, 上村裕樹, 織田栄子	179-187
保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラム開発の試み(2)	共著	2019 年 2 月	東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要 第 49 号	時本英知, 日野さくら, <u>三浦主博</u> , 竹之下典祥, 瀬尾知子, 大迫章史, 福田真一, 細川梢, 石森真由子, 利根川智子	119-123
保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラム開発の試み	共著	2018 年 3 月	東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要 第 48 号	<u>三浦主博</u> , 音山若穂, 利根川智子, 上村裕樹, 織田栄子	133-137

グループワーク指向性が課題解決型学習に及ぼす影響—保育実習事後指導における取組について—	共著	2017 年 11 月	地域福祉サイエンス 第 4 号	上村 裕樹, 音山 若穂, 利根川 智子, 工藤 ゆかり, 滝沢 真毅, <u>三浦 主博</u> , 織田 栄子, 坂本 大輔	105-115
--	----	-------------	-----------------	--	---------

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
保育者養成におけるブレンディドラーニングを用いた保護者との関係構築力の育成を目指した授業実践について			2022 年 5 月	日本保育学会 第 75 回大会		
保護者との関係構築力の育成を目指す ICT を活用した教材研究について			2022 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 6 回研究大会		
教育実習における養成校の実態と意識 I ～教育実習についての実態調査～			2021 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 5 回研究大会		
教育実習における養成校の実態と意識 II ～教育実習と保育実習の比較～			2021 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 5 回研究大会		
保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラムの開発(4)			2020 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 4 回研究大会		
社会的スキルのトレーニングが保育者養成学生の省察へと及ぼす影響			2019 年 5 月	日本保育学会第 72 回大会		
実習事後指導のペア・インタビューと保育者に関する職業意識について			2019 年 5 月	日本保育学会第 72 回大会		

保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラムの開発(3)	2019 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 3 回研究大会
保育者養成におけるキャリアイメージの段階的構築に向けた教育プログラムの検討(2)	2019 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 3 回研究大会
実習指導におけるピアインタビューを活用した省察力育成の試み	2019 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 3 回研究大会
保育者養成学生におけるピア・インタビューを取り入れた PBL の実践	2018 年 5 月	日本保育学会第 71 回大会
保育(施設)実習の事前・事後指導の実際と課題 ～東北ブロック内における調査より(1)～	2018 年 5 月	日本保育学会第 71 回大会
障害児・者施設における保育実習指導について ～東北ブロック内におけるヒアリング調査より(2)～	2018 年 5 月	日本保育学会第 71 回大会
保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラムの開発(2)	2018 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 2 回研究大会
対話型アプローチにおける展望的視点を促すプログラムの一試案	2018 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 2 回研究大会
保育者養成におけるキャリアイメージの段階的構築に向けた教育プログラムの検討	2018 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 2 回研究大会
保育者養成における対話型アプローチを用いた取り組みについて―施設実習の振り返りに AI ミニ・インタビューを取り入れた一実践―	2018 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 2 回研究大会
対話型アプローチと協同作業の認識との関連(1) ―AI ミニインタビューの事前事後比較―	2017 年 5 月	日本保育学会第 70 回大会発表要旨集
対話型アプローチと協同作業の認識との関連(2) ―協同作業認識と対話の満足度の関連―	2017 年 5 月	日本保育学会第 70 回大会発表要旨集

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本特殊教育学会	編集委員	1993 年 4 月
日本保育学会		2001 年 4 月
日本発達心理学会		2005 年 4 月
日本教育心理学会		2005 年 4 月
日本保育者養成教育学会		2016 年 9 月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
科学研究費助成事業	2022 年～	基盤研究 C	対話型組織開発による保育研修支援と緑リーダー育成プログラムの構築(研究分担者)	140 万
全国保育士養成協議会、及び 全保養協東北ブロック 科学研究費助成事業	2022 年	ブロック共同研究・研究費助成	保育者養成の変化と課題(2)(研究協力委員)	80 万
	2021 年～	基盤研究 C	保育者養成におけるブレンディドラーニングを用いた保護者との関係構築力の育成(研究分担者)	100 万
全国保育士養成協議会、及び 全保養協東北ブロック	2021 年	ブロック共同研究・研究費助成	保育者養成の変化と課題(研究協力委員)	80 万
全国保育士養成協議会東北ブロック	2020 年	ブロック特別研究プロジェクト	保育実習代替授業プログラムの検討・教材開発(共同研究者)	112 万
全国保育士養成協議会、及び 全保養協東北ブロック	2019 年	ブロック共同研究・研究費助成	養成校と実習施設との連携に向けた実習内容に関する調査研究(2)～実習施設の実態と意識～(研究協力委員)	80 万
全国保育士養成協議会、及び 全保養協東北ブロック	2018 年	ブロック共同研究・研究費助成	養成校と実習施設との連携に向けた実習内容に関する調査研究～養成校の実態と意識～(研究協力委員)	80 万
東北生活文化大学・東北生活 文化大学短期大学部	2018 年	教育改革推進研究奨励賞助成	保育者養成におけるキャリア発達を促すための新規な教育プログラムの開発と実践(研究代表者)	25 万

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部	2018 年	教育改革推進研究奨励賞	大学における多様ニーズをもつ学生への支援に関する調査研究(研究代表者)	25 万
全国保育士養成協議会、及び全保養協東北ブロック	2017 年	ブロック共同研究・研究費助成	施設実習指導の実際に関する調査研究(2)～施設種別にあわせた実習事前・事後指導の提案～(研究代表者)	80 万

3. 特記事項

[非常勤講師]

- ・東北福祉大学 教育学部 「保育内容研究(言葉)／保育内容(言葉)の理論と方法」(2016 年 4 月～現在)
- ・宮城学院女子大学 教育学部 「幼児理解の理論と方法」(2018 年 4 月～現在)
- ・東北生活文化大学短期大学部 生活文化学科 「発達心理学」(2020 年 4 月～現在)

[社会的活動(委員等)]

- ・宮城県保育者養成校連絡協議会・会長(2017 年 12 月～現在)
- ・仙台市社会福祉協議会泉区社会福祉協議会・委員(2018 年 4 月～現在)
- ・仙台市保育専門技術向上支援事業スーパーバイザー(2019 年 4 月～現在)
- ・全国保育士養成協議会東北ブロック企画委員会 委員(2016 年 11 月～現在)
- ・全国保育士養成協議会東北ブロック研究委員会 協力研究委員(2018 年 4 月～現在)
- ・全国保育士養成協議会東北ブロック研究委員会 委員長(2016 年 4 月～2018 年 4 月)
- ・全国保育士養成協議会 保育士養成専門委員(2022 年 4 月～現在)

[研修会・講演会 講師等]

いずみ松陵幼稚園・保護者向け講演会

2022 年 5 月 28 日

「遊ぶことは学ぶこと」～幼児期の遊びを通して生きる力を育む～

岩手県社会福祉協議会・保育協議会 令和 3 年度保育所長・保育者部会	2022 年 2 月 18 日	子どもの主体的な育ちを実現する環境づくりに向けて ～保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の観点から～
令和 3 年度 宮城県 子育てサポーターリーダー養成講座	2021 年 11 月 18 日	障害のある子どもの理解と対応
令和 3 年度 山形県保育士等キャリアアップ研修(置賜会場) 講師	2021 年 10 月 29 日	障害児保育
令和 3 年度 宮城県社会福祉施設職員 保育所(園)長研修	2021 年 8 月 27 日	保育実習から見る人材育成
令和 3 年度 幼稚園教諭免許状更新講習 講師	2021 年 8 月 1 日	子どもの障がいの理解と援助
令和 3 年度 仙台市 主任職員研修会	2021 年 6 月 2 日	保育現場における効果的な研修方法 ―「自己評価ガイドライン」に基づいて―
令和 2 年度 山形県保育士等キャリアアップ研修(村山会場) 講師	2020 年 10 月 12 日～13 日	障害児保育
令和 2 年度 仙台白百合女子大学出張出前講座(福島南高校)講師	2020 年 10 月 8 日	保育者を目指す人へ
令和 2 年度 山形県保育士等キャリアアップ研修(庄内会場) 講師	2020 年 10 月 5 日～6 日	障害児保育
夢ナビライブ 2020 仙台会場 講義ライブ 講師	2020 年 10 月 3 日	保育は大変？ 保育の課題と魅力を考える
令和 2 年度 宮城県保育士等キャリアアップ研修(大崎会場) 講師	2020 年 9 月 4 日,11 日,17 日	障害児保育
令和 2 年度 宮城県保育士等キャリアアップ研修(仙台会場) 講師	2020 年 9 月 2 日,9 日,14 日	障害児保育
令和 2 年度 宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会 児童館職員等研修会	2020 年 9 月 3 日,8 日,24 日	子どもの発達の理解と援助
令和 2 年度 幼稚園教諭免許状更新講習 講師	2020 年 8 月 22 日	子どもの障がいの理解と援助
令和 2 年度 東北生活文化大学教員免許状更新講習	2020 年 8 月 10 日	子どもの理解と援助 ～インクルーシブ教育・保育～
令和 2 年度 宮城県私立幼稚園連合会 web を活用した園内園研修の進め方研修会	2020 年 8 月 6 日	保育記録「記録の作成から活用まで」
2020 みやぎ保育カフェ 講師・ファシリテーター	2020 年 7 月 26 日	子どもに笑顔を届けるために／ワールドカフェで語ろう～改めて考

		える保育の魅力～
令和元年度 角田市 家庭的保育研修 講師	2020 年 2 月 19 日	子どもの心身の発達と保育
令和元年度 富谷市富谷保育所 保護者向け講演会 講師	2020 年 1 月 25 日	子どもが健やかに育つ条件、今親がすべきことは ～非認知スキル形成のために～
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2020 年 1 月 17 日	保育者を目指す人へ(ワークショップ)
令和元年度 全国認定こども園協会 宮城県支部 保育士等キャリアアップ研修 講師	2019 年 12 月 27 日	障害児保育
令和元年度山形県 幼稚園新規採用教員研修 講師	2019 年 12 月 3 日	子どもの発達理解
令和元年度 山形県保育士等キャリアアップ研修(置賜会場) 講師	2019 年 11 月 27 日～28 日	障害児保育
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2019 年 11 月 8 日	これから求められる資質・能力
令和元年度 宮城県保育士等キャリアアップ研修(大崎会場) 講師	2019 年 9 月 18 日,25 日,10 月 2 日	障害児保育
令和元年度 山形県保育士等キャリアアップ研修(村山会場) 講師	2019 年 9 月 9 日～10 日	障害児保育
せんだい保育マルシェ シンポジウム 指定討論者	2019 年 9 月 1 日	主任が作るよい職場～3 園の事例から～
令和元年度 宮城県保育士等キャリアアップ研修(仙台会場) 講師	2019 年 8 月 28 日,9 月 2 日,12 日	障害児保育
令和元年度 幼稚園教諭免許状更新講習 講師	2019 年 8 月 17 日	子どもの障がいの理解と援助
令和元年度 仙台市社会福祉協議会泉区事務所 いずみボラカフェ 講師(ファシリテーター)	2019 年 7 月 30 日	地域とボランティア～学生ボランティア等の力と地域の活動をつなぐためには～(ワークショップ)
令和元年度 宮城県私立幼稚園連合会 特別支援研修会	2019 年 7 月 26 日	障害に対する理解
令和元年度 釜石市 幼児教育施設合同研修会(保育士等キャリアアップ研修)	2019 年 6 月 29 日	障害児保育の計画、記録、評価
令和元年度 仙台市 主任職員研修会	2019 年 6 月 21 日	これからの保育について―「10 の姿」を意識した保育の実践―

令和元年度 富谷市保育士研修会 講師	2019 年 6 月 6 日	新保育所保育指針研修会～三歳以上児～
令和元年度 富谷市保育士研修会 講師	2019 年 5 月 23 日	新保育所保育指針研修会～三歳未満児～
令和元年度子育てサポーター養成講座(東部教育事務所) 講師	2019 年 5 月 22 日	子どもの理解とかかわり方～子どもの発達の理解を通して～
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2019 年 5 月 17 日	保育者を目指す人へ
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2019 年 2 月 15 日	保育者を目指す人へ(ワークショップ)
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2019 年 1 月 11 日	高校生活を振り返って(ワークショップ)
平成 30 年度 山形県保育士等キャリアアップ研修(村山会場) 講師	2018 年 12 月 19 日～20 日	障害児保育
平成 30 年度 全国保育士養成協議会 東北ブロックセミナー・分科会 話題提供者	2018 年 11 月 25 日	「研修」における保育現場と保育士養成校の協働
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2018 年 11 月 2 日	これから求められる資質・能力
平成 30 年度 山形県保育士等キャリアアップ研修(庄内会場) 講師	2018 年 10 月 31 日～11 月 1 日	障害児保育
平成 30 年度 山形県保育所主任保育職員研修会 講師	2018 年 10 月 10 日	保育所保育指針の理解と実践
平成 30 年度 宮城県保育士等キャリアアップ研修(大崎会場) 講師	2018 年 9 月 26 日,10 月 3 日,4 日	障害児保育
平成 30 年度 全国保育士養成協議会 全国保育士養成セミナー 報告・学習会Ⅱ 話題提供者	2018 年 9 月 16 日	施設実習指導の実際に関する調査研究(2)
平成 30 年度 福島県保育所指導管理者研修 講師	2018 年 9 月 11 日	保育所保育指針の改訂とそのポイントを踏まえた保育の質の向上について
平成 30 年度 富谷市保育士研修会 講師	2018 年 9 月 4 日	保育所保育指針の改訂
平成 30 年度 宮城県保育士等キャリアアップ研修(仙台会場) 講師	2018 年 9 月 3 日,10 日,18 日	障害児保育
平成 30 年度 仙台市社会福祉協議会泉区事務所 いずみボラカフェ	2018 年 8 月 2 日	地域とボランティア～学生ボランティア等の力と地域の活動をつなぐ

講師(ファシリテーター)		ためには～(ワークショップ)
平成 30 年度 幼稚園教諭免許状更新講習 講師	2018 年 7 月 28 日	子どもの発達と障がい
平成 30 年度 大河原教育事務所幼保小連携推進合同研修会 講師	2018 年 7 月 24 日	学習指導要領・教育要領・保育指針の改訂と幼保小の接続について
平成 30 年度 七ヶ浜町子育てサポーター養成講座 講師	2018 年 7 月 19 日	子どもの発達について
平成 30 年度 北海道・東北ブロック保育研究宮城大会 分科会 助言者	2018 年 7 月 13 日	新たな時代の保育実践～すべての子どもに向けて～
平成 30 年度 富谷市保育士研修会 講師	2018 年 7 月 5 日	保育所保育指針の改訂
平成 30 年度 富谷市保育士研修会 講師	2018 年 6 月 21 日	保育所保育指針の改訂
平成 30 年度 仙台市主任保育士研修会 講師	2018 年 6 月 8 日	園内研修の進め方
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2018 年 5 月 18 日	保育者を目指す人へ
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(大崎中央高校) 講師	2018 年 2 月 16 日	保育者になるために
岩手県社会福祉協議会・保育協議会 保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領学習会 講師	2018 年 2 月 10 日	保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領について
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2018 年 2 月 8 日	保育者を目指す人へ(ワークショップ)
平成 29 年度 山形県保育士等キャリアアップ研修 講師	2018 年 2 月 2 日～3 日	障害児保育
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(宮城県柴田高校) 講師	2017 年 12 月 13 日	保育者の仕事とは
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2017 年 11 月 30 日	高校生活を振り返って(ワークショップ)
第 1 回 東京家政大学子ども学部子ども支援学科「保育者協働プロジェクト」シンポジウム シンポジスト	2017 年 11 月 25 日	キャリアパスにつながる導入教育の取り組み
平成 29 年度 全国保育士養成協議会 東北ブロックセミナー・分科会	2017 年 11 月 19 日	「研修」における保育現場と保育士養成校の協働

話題提供者

平成 29 年度 全国保育士養成協議会 東北ブロックセミナー・シンポジウム シンポジスト	2017 年 11 月 18 日	保育現場における「保育の質の向上」と保育士養成校の役割・課題—実習、就職、研修の側面を中心に—
平成 29 年度 宮城県 幼児教育アドバイザー研修会	2017 年 11 月 14 日	園内研修の進め方について～園内研修の意義・計画作成・工夫～
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(宮城県石巻北高校) 講師	2017 年 11 月 10 日	保育者を目指す人へ
平成 29 年度 七ヶ浜町 放課後児童支援員・研修会 講師	2017 年 11 月 8 日	障がい及び問題を抱える児童との関わり方
平成 29 年度 宮城県教育委員会 第 2 回「学ぶ土台づくり」研修会 講師	2017 年 11 月 7 日	学習指導要領・教育要領・保育指針の改訂と幼保小の接続について
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(鶴岡東高校) 講師	2017 年 10 月 11 日	保育者を目指す人へ
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(秋田県増田高校) 講師	2017 年 9 月 13 日	保育者を目指す人へ
平成 29 年度 全国保育士養成協議会 全国保育士養成セミナー 報告・学習会Ⅱ 話題提供者	2017 年 9 月 3 日	施設実習指導の実際に関する調査研究
平成 29 年度 幼稚園教諭免許状更新講習 講師	2017 年 8 月 12 日	幼稚園教育内容を深める —子どもの発達を理解する—
平成 29 年度 仙台市社会福祉協議会泉区事務所 いずみボラカフェ 講師(ファシリテーター)	2017 年 8 月 2 日	地域とボランティア～学生ボランティア等の力と地域の活動をつなぐためには～(ワークショップ)
平成 29 年度 七ヶ浜町子育てサポーター養成講座 講師	2017 年 7 月 18 日	子どもの発達について
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2017 年 7 月 13 日	これから求められる資質・能力
東北生活文化大学短期大学部 出前授業(東北生活文化大学高校) 講師	2017 年 5 月 18 日	保育者を目指す人へ

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ミヤ ザキ マサ ミ 氏 名 宮 崎 正 美	職 名 教授 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 Sacrae Theologiae Licentiatu s・神学修士 (大学名)FACULTAS ECCLESIASTICA THEOLOGIAE TOKYOENSIS(UNIVERSITAS CATHOLICA SOPHIA)・上智大学 (取得年月) 1992 年 2 月・1992 年 3 月
--------------------------------	-----------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1)過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 講義「人間論」 (旧カリキュラム「人間論Ⅰ」「人間論Ⅱ」)	2019.4～現在 (2011.4～ 2019.3)	学部共通科目必修科目。全学科3年次開講科目。 下記「人間論Ⅰ」「人間論Ⅱ」の授業内容を、1/2 の時間数で実施するという難題を負い、従来と同様の方法を用いながら、受講生の授業内容の理解しやすさを考慮して実施している。 科目内容は(キリスト教的)人間学として、人間に関する総合的理解(したがって多分野にわたる諸科学の協働)の必要性を理解する。また、「人間とは何か」という問いを通して、現実の中の神秘に目を向けつつ真理を探究することを学ぶ。最初に、大学における自由七科の意義に目を向けさせる。さらに、人間のいのちについて、「子どものいのち」という切り口から、①現代・日本、②古代・聖書の文化、③近代・日本の文化と条件を変えて学生に考えさせる。死に向かって生きている人間の現実を考察させた。②については、聖書のことばを、聖書学の方法論を簡便に用いることによって解説し、歴史的文化的背景を理解しながらそのコンテキストを学ばせる。③については、室生犀星の作品「童子」「後の日の童子」を映像化した是枝裕和監督『後の日』を観てもらい、考えさせた。 また、犯罪被害という特殊に思われる問題を取り上げることによって、望ましくない人間関係に置かれてしまう状況の理解、「償い」「ゆるし」の問題の理解を進めた。考えるきっかけとして、公共放送をはじめ一般の番組で放映された番組のビデオ録画を活用した。その他 VHS、DVD の映像資料や、PowerPoint を活用した。 人間一般のおかれた環境のなかでキリスト教の世界観・価値観がもつ意味を説明するように工夫している。人間の死と生、家族をめぐる複合的な問題を意識させ、「人間が生きている」ことの意味を、自分自身で問い続けることができるように授業計画をたて、実施した。
2. 講義「宗教と美術」	2006.4～現在	学部共通科目選択科目。全学科3年次開講科目。

		キリスト教を中心とした宗教と、美術との関わりについて、美術作品の鑑賞に終始することなく、むしろ自分に所与として与えられた感性・想像力などをくししつつ「自分で考える」ようにした。そのために、PowerPoint を毎回、活用した。また NHK の優れた番組の中から、考えるための資料を提供した。また同時にイコノロジー(図像学)の初歩的な内容を入れて、東方キリスト教のアイコンについて学ぶことを通して、キリスト教における図像の役割の大きさを理解させた。さらに、図像をとおしての資格的認識が、人間において成立するということについて、人間の認識の構造を、生理学的・解釈学的・哲学的に学ばせた。 公共放送をはじめ一般の番組で放映された番組のビデオ録画を活用した。
3. 「子ども発達総合演習Ⅰ」 「子ども発達総合演習Ⅱ」 「子ども発達総合演習Ⅲ」 「子ども発達総合演習Ⅳ」	2021.4～2022.3 2016.4～2017.3 2021.4～2022.3	「子ども発達総合演習Ⅰ」については、2021 年度は、「キリスト教と障がい」をテーマに基本的な文献調査をした。2016 年度は、キリスト教の基本的理解を確認しながら、リー・ストロベル著『ナザレのイエスは神の子か？——「キリスト」を調べたジャーナリストの記録』を購読した。 2022 年度は、「キリスト教と障害」について、論文作成の指導、および他の1名は、「クラシック・バレエにおける宗教の考察——歴史をふまえて」というテーマで、文献研究に続き論文指導をしている。2016 年度は、「子ども発達総合演習Ⅱ」5名のゼミ生それぞれの関心に即した論考を卒業論文に結晶するよう指導した。
4. 自主ゼミ（学生の自主的研究支援）聖書研究会、ラテン語、ロシア語	2017.4～2018.3 2002～2016 2019.4～2021.3 2002～2015.3 2019.4～7	カトリック、プロテスタント教会に所属する学生たちを対象とする聖書研究会。単に聖書を学ぶだけでなく、学生たち相互の関わりを大切にする機会を設けた。 2019 年度は、学生のカテキズムと解説に重点をおいて進め、学生の希望に応じてカトリック大学神学部入学試験問題を教材とした [週1コマ]。 ラテン語に興味をもつ学生・教員を対象とした自主講座。グレゴリオ聖歌 Exsultet をテキストに週1回、文法的解析を中心に学んだ。 2019 年度は、ラテン語に興味ある学生の理解度に合わせて、英語の単語や文法とのつながりを中心とし、基礎文法を学ばせた。またロシア語は、アルファベットのキリル文字の習得から始めて、学生の理解力に合わせて文法だけでなく、日常会話の習得も心がけて行った[週1コマ]。
5. キリスト教学テキスト『キリスト教学概論—過越の生を生きる』（現代神学研究会）第4版	2006	カトリックの立場によるキリスト教学の教科書。
6. 東北大学ラテン語Ⅰ・Ⅱテキスト『ラテン語文法の基礎ノート』（私家版）第2版	2007	ラテン語文法の解説書。東北大学文学部および全学教育開講科目の教科書。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 1. 岩波キリスト教辞典	共著	2002.6	岩波書店		大貫隆、宮本久雄、 名取四郎、百瀬文晃	2,2,17,49,51-52,57, 60-61,126, 145-6,223, 245, 250,266,317,317,330 ,404,506,527, 541,556, 558-9, 576,654,707, 710-1,802,804, 867,884,910,929, 962,1032,1069, 1076,1102,1129 1222,1222,1231
2. 新カトリック大事典 第4巻	共著	2009.4	研究社, 新カトリック大事典編纂委員会 編	相川ノブ子、 他 598 名	委員長:高柳俊一、 編集員:安斎伸、他 50 名	20 項目: 20, 41, 76, 98, 100, 126, 211, 235, 239, 255, 281-2, 295, 327, 370, 371, 394, 445, 446, 487, 965
[論文] 1. 震災遺構としての聖堂とイコンの神学—旧石巻 正教会聖堂の事例から	単著	2015.2	『仙台白百合女子大学紀要』第 19 号(2014)			11-30 頁
2. 宗教的人間学の可能性に向けて——臨床宗教師の 存在を契機とした神学的考察	単著	2018.3	『仙台白百合女子大学紀要』第 22 号(2017)			1-13 頁
3. ビザンティン典礼における「平和」の祈りとしての の連禱	単著	2019.3	『人間の発達——仙台白百合 女子大学人間発達研究センタ —紀要』第 13 号(2018)			41-50 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
1.『宣教のパラダイム転換(下)』12 章 12-13 項「神学としての宣教」「希望に満ちた行動としての宣教」	共訳	2001.3	新教出版社	有村浩一、 矢口洋生、他	監修:鍋谷堯爾 14 名	396-426 頁

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西 暦)	発表場所
1.「オイコノミアに関する一考察——ロシア正教会総主教と教皇の会談をめぐって」	2016.6	日本基督教学会 東北支部第 50 回大会(東北学院大学)
2.「宗教的人間学の可能性——臨床宗教師の存在を契機として」	2017.6	日本基督教学会 東北支部第 51 回大会(東北学院大学)
3.「現代カトリック教会におけるウクライナ・ギリシア・カトリック教会の存在と葛藤について」	2018.8	東方キリスト教学会 第 18 回例会(東京大学)
4.「宗教的人間学の可能性——臨床宗教師の存在を契機として」	2018.9	日本カトリック神学会 第 30 回学術大会(上智大学)

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
1. 日本カトリック神学会 2. 日本基督教学会	学会幹事(2003.6～8 期目) 学会賞審査委員(2020.4～現在)	1991
		1995
3. 東方キリスト教学会		2001
4. 日本宣教会		2005

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

(非常勤講師)

1. 東北大学 (文学部) 「キリスト教史」担当 (2018. 10～現在)
2. 東北大学 (全学教育) 「ラテン語Ⅰ」担当 (1996. 4～現在)
3. 東北大学 (全学教育) 「ラテン語Ⅱ」担当 (1996. 4～現在)
4. 東北大学 (文学部) 「ラテン語」前期担当 (2011. 4～現在)
5. 東北大学 (文学部) 「ラテン語」後期担当 (2004. 4～2006. 3 および 2010. 4～現在)

(講演会・研修会等)

1. 講演「現代のニーズに応じて建学の精神を生かす教育——仙台白百合女子大学の 新カリキュラム改革を中心に」於・仙台白百合学園 (2016. 3. 28)
2. 出張公開講座「死と生の人間学——キリスト教的視点に基づいて」於：盛岡白百合学園高等学校、(2016. 10. 17)

(社会的活動)

1. こころの相談室 理事 (2015. 7～2017. 3)
2. 東北臨床宗教師会 副会長 (2018. 10～現在)

(大学の管理運営上の実績)

1. 大学広報室長 (2015. 4～2017. 3)
2. 仙台白百合短期大学・仙台白百合女子大学 50 周年記念誌編集委員 (『仙台白百合短期大学・仙台白百合女子大学 50 周年記念誌』2016 年 7 月発行)
3. 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター長 (2018. 4～現在)

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ シケ マサヒロ 氏 名 四家 昌博	職 名 准教授 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 博士(芸術学) (大学名) 日本大学大学院 (取得年月) 2019 年 3 月
---------------------------	------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
福島県立高等学校の常勤講師(芸術・音楽科)として勤務し、授業や部活動等で音楽教育を実践した。	2004. 4 ～ 2008. 3	授業として「音楽Ⅰ」、「音楽Ⅱ」、「音楽Ⅲ」、「総合的な学習の時間(ミュージック講座)(講座別学習)」、「保育音楽」を担当し、生徒の個別能力に合わせた、音楽能力の向上を図る授業を実践した。 また、福島県高等学校教育研究会音楽部会、福島県高等学校音楽連盟、福島県吹奏楽連盟に所属・加盟し、高等学校における音楽教育の発展に努めた。とくに和楽器指導のための箏、三味線の演奏法、指導法を定期的に研修会に参加し地区教員とともに研究した。 部活動「音楽部」の顧問を務め、学内発表会や、学校行事、地域行事での演奏、地域施設での演奏をはじめ、吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストなどに参加し、発表の機会を設け、音楽活動での地域参加を推進し、生徒の自主的、意欲的な活動を牽引した。 「総合的な学習の時間(ミュージック講座)」では、「音楽ができること」を考える学習を目指し、グループでの歌唱、ピアノ連弾、バンド演奏、作詞・作曲など様々な音楽活動を体験し、また知的障がい者入所更生施設への訪問演奏を通じて、利用者とのコミュニケーションが取れる演奏発表を実践し、新聞に掲載されるなど、好評を得た。 2006 年度からの学科改編に伴い、教育課程委員会に芸術科主任として携わり、保育・幼児教育系進学者のための学校設定科目「保育音楽」、「造形美術」、「総合芸術(音楽・美術)」を立ち上げ、カリキュラムを構築し、授業を実践した。

本学において、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭養成養成課程におけるピアノの授業のコーディネートを行った。	2008. 4～現在	本学の保育士、幼稚園教諭、小学校教諭養成課程におけるピアノ関連科目「ピアノ入門 A・B」、「ピアノⅠ A・B」、「ピアノⅡ」のコーディネート(レベル別のクラス分け、非常勤講師と連絡や共通理解、実技試験の手配等)を担当し、限られた設備や時間の中で、学生一人ひとりの能力に合わせた授業が行えるような環境づくりに努めている。
「ピアノ入門 A・B」、「ピアノⅠ A・B」、「ピアノⅡ」の授業を実践した。	2008 年～現在	「ピアノ入門 A・B」、「ピアノⅠ A・B」、「ピアノⅡ」の授業を担当し、「ピアノ入門・BA」では、ピアノ初学者に対する効果的な指導法を研究しながら、個々の能力に合わせた授業を実践している。「ピアノⅠ A・B」、「ピアノⅡ」では、基礎的なピアノ奏法をもとに、保育実習や幼稚園教育実習、小学校教育実習やそれぞれの採用試験等に備え、弾き歌い能力や、音楽表現のさらなる向上を目的とした授業を行っている。 期末試験終了後には、学生へのアンケートを実施し、学生の実態を踏まえたうえで、授業改善やカリキュラムの再考に役立てている。
音楽科目(ピアノ、楽典)、その他幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格、免許取得のための授業等を実践した。	2010 年～現在	2010 年度より、「基礎技能(音楽)」を、2012 年度より、「子どもと音楽」を担当し、保育・幼児教育、また小学校音楽教育に必要とされる音楽の基礎的知識・楽典や、手遊び・弾き歌いなどの音楽的能力、リコーダー、和楽器の基礎的な演奏の能力を養うための授業を行っている。 2018 年度より、「保育内容(表現(音楽))」の授業を担当し、領域「表現」の音楽に関する内容、指導法について、また「初等教科教育法(音楽)」を担当し、小学校音楽科における指導方法について、「保育表現技術」を担当し、音楽と音楽以外の分野での総合的な表現について、指導している。さらに「保育実習指導」、「初等教育実習の事前事後指導 A、B」についても担当している。
「子ども発達総合演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を担当し、「卒業発表演奏会」を開催している。	2018 年～現在	「子ども発達総合演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」(ゼミ)では、教育・保育に関わる音楽について実技を中心に活動し、卒業時には「卒業発表演奏会」として、ピアノやその他楽器の合奏や独奏、合唱などでの演奏会を開催している。
「ピアノ入門 A」のオリジナル教材を作成した。	2016 年～現在	教育・保育現場でのピアノ演奏や弾き歌いについて、ピアノ初学者が効果的に学習することができるようオリジナルの教科書を授業担当者とともに作成した。2018 年度からはピアノ初学者が効果的に学習することができるよう研究結果に基づき改定を重ねている。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書(CD)] CD付き楽譜「ファーストポジションで奏でる ヴァイオリン曲集15」の模範演奏CD(ピアノ伴奏)	共著	2003. 4	ドレミ楽譜出版社	作曲者:ニコ ル麻莉子 ヴァイオリン: 伝田正秀		
[論文] フランツ・リスト作曲「巡礼の年 第2年 イタリア」 における、音楽と他分野の芸術の関係	単著	2004. 1	日本大学大学院芸術学研究科 修士論文			
オペレッタ活動の教育的効果について ー2014 年度「保育内容(音楽とリズム)」における授 業実践からー	共著	2016. 3	仙台白百合女子大学紀要第 20 号	岩淵摂子		p195～210
日本におけるピアノ教育受容史:ピアノ教育初期の 教育者と教材について	単著	2018. 3	日本大学大学院芸術学研究科博 士後期課程研究詩『芸術・メディア・ コミュニケーション』			
日本のピアノ教育初期の教則本についてー保育 者、小学校教員養成課程におけるピアノ初学者を 対象とした教材開発に向けてー	単著	2018. 3	仙台白百合女子大学紀要第 22 号			p75～98
「保育者、小学校教員養成課程におけるピアノ初学 者へのピアノ指導ー効果的なピアノ学習のための新 しい教材の開発ー」	単著	2019. 3	博士論文			

「保育内容(環境)とインクルーシブ保育に関する研究―特別な支援を必要とする子どもの遊びの場面の事例から―」	共著	2019. 3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要「人間の発達」第 13 号	佐野裕子		p33～39
「保育内容(環境)(人間関係)とインクルーシブ保育に関する研究」	共著	2020. 3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要「人間の発達」第 14 号	佐野裕子		p21～28
「保育内容(表現)とインクルーシブ保育に関する研究―特別な支援を必要とする子どもの遊びの場面の事例から―」	共著	2020. 3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要「人間の発達」第 14 号	佐野裕子		p29～38
「アクティブ・ラーニングを中心とした「保育表現技術」の授業実践の事例Ⅰ―身体・音楽・造形の総合的な表現活動を通した保育実践力の育成を目指して―」	共著	2020. 3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要「人間の発達」第 14 号	仁藤喜久子 千凡晋		p39～52
「アクティブ・ラーニングを中心とした「保育表現技術」の授業実践の事例Ⅱ―領域(表現)・保育内容(表現)と関連付けて―」(研究報告)	共著	2020. 10	日本児童学会「児童研究」第 99 巻	仁藤喜久子 千凡晋		p48～58
小学校教員養成課程における音楽科教育法に関する考察―和楽器(箏)の指導について―	単著	2021. 9	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要「人間の発達」第 15 号			p17～26
幼稚園教育実習指導の実践 ―模擬保育を通した学生の学び―(実践報告)	共著	2022. 2	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報	千凡晋		p23～30

保育中の歌について —子どもの歌についてのアンケートから—	共著	2022. 3	聖和学園短期大学紀要 第 59 号	岩淵摂子 佐藤万利子 松村万里子		p161～175
----------------------------------	----	---------	-------------------	------------------------	--	----------

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

芸術、体育実技等の分野			
競技会・展覧会・演奏会の名称	競技会・展覧会・演奏会の場所	開催年月	発表・展示内容等
[演奏] 第 22 回日本ピアノ教育連盟ピアノオーディション E 部門本選(入賞(最高位))	保谷こもれびホール	2006. 3	ピアノ独奏
「第 2 回 東京ピアノコンクール 本選」第 2 位	大田区民プラザ	2011. 1	ピアノ独奏
「2012 アジア国際音楽コンクール」第 1 位 (ピアノ一般部門)	旧東京音楽学校音楽堂	2012. 8	ピアノ独奏
「第 17 回JILA 音楽コンクール」ピアノ部門 第 2 位(1 位なし)	渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール	2012. 9	ピアノ独奏
「一緒に一歩コンサート」(富岡町 3.11 を語る会主 催)	いわき市文化センター大ホール	2016. 2	ピアノ独奏
東日本大震災追悼演奏(富岡町社会福祉協議 会主催)	富岡町社会福祉協議会おだ がいさまセンター	2016. 3	ピアノ独奏
「四家昌博ピアノリサイタル」 (富岡町、NPO 法人富岡町 3・11 を語る会 主催)	星総合病院メグレズホール	2016. 9	ピアノ独奏

龍台寺施餓鬼会での演奏会	せきのホール	2016. 10	フルート、クラリネット、ピアノによる演奏会
「ピアノの饗宴」	音楽の友ホール	2016. 11	ピアノ独奏
「やすらぎコンサート 13」 (いわき市立高坂小学校教育後援会主催)	いわき市立高坂小学校	2016. 11	ソプラノ、フルート、ピアノによる演奏会
「四家昌博 ピアノリサイタル」	松尾ホール (スタインウェイサロン東京)	2017. 1	ピアノ独奏
江東区立八名川小学校「八名川ミュージックチャンネル」(歌とピアノのコンサート)	江東区立八名川小学校	2017. 2	歌とピアノによるコンサート
「楊麗貞と門下生による Brilliant concert」	カワイ表参道サロン「パウゼ」	2017. 3	ピアノ独奏
東日本大震災追悼演奏(富岡町社会福祉協議会主催)	富岡町社会福祉協議会	2017. 3	ピアノ独奏
「第 33 回 JPTA ピアノオーディション東北地区優秀賞記念コンサート」における招待演奏	常盤木学園シュトラウスホール	2017. 3	ピアノ独奏
ピアノと朗読によるコンサート 「富岡の空へ～帰郷の時～」	富岡町文化交流センター「学びの森」大ホール	2017・6	朗読とピアノ独奏によるコンサート
Les Concerts des Étudiants de l'Académie Internationale d'Été de Nice (ニース国際音楽アカデミー 受講生選抜コンサート)	フランス・ニース地方音楽院コンサートホール	2017・8	ピアノ独奏
「ピアノの饗宴」	音楽の友ホール	2017・11	ピアノ独奏
「やすらぎコンサート 14」 (いわき市立高坂小学校教育後援会主催)	いわき市立高坂小学校	2017・11	ソプラノ、フルート、ピアノによる演奏会
朗読・朗読劇フェスタ～蔵で読む～ ドラマリーディング「空の村号」(劇中のピアノ演奏)	創空間「富や蔵」	2017・11	朗読劇中のピアノ演奏
演劇キャンプ in 富岡 報告会 演劇「空の村号」(劇中のピアノ)	国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール	2018・2	演劇中のピアノ独奏
「楊麗貞と門下生による Brilliant concert II」	カワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」	2018・2	ピアノ独奏

「やすらぎコンサート 15」 (いわき市立高坂小学校教育後援会主催)	いわき市立高坂小学校	2019・2	フルート、テノール、ピアノによる演奏会
「日本大学大学院芸術学研究科修了演奏会」	練馬文化センター	2019・3	ピアノ独奏
「やすらぎコンサート 16」 (いわき市立高坂小学校教育後援会主催)	いわき市立高坂小学校	2019・10	ソプラノ、テノール、ピアノによる演奏会
「仙台白百合女子大学 人間発達学科四家ゼミ 卒業研究発表演奏会」(講師演奏)	仙台白百合女子大学 講堂	2019・12	ピアノ独奏、ピアノ連弾
「ランチタイムコンサート vol.115 お話と音楽で綴る くるみ割り人形」(上野学園 石橋メモリアルホール主催)	上野学園 石橋メモリアルホール	2020・11	2 台ピアノによる演奏会
「仙台白百合女子大学 人間発達学科四家ゼミ 卒業発表演奏会」(講師演奏)	仙台白百合女子大学 講堂	2021・1	ピアノ独奏、連弾、伴奏
「仙台白百合女子大学 人間発達学科四家ゼミ 卒業発表演奏会」(講師演奏)	仙台白百合女子大学 講堂	2022・1	ピアノ独奏、連弾、伴奏

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
福島県高等学校教育研究会音楽部会:研究発表「和楽器指導のための、箏曲演奏の実践(沢井忠夫作曲:「つち人形」、「花筏」等の演奏)」(福島県高等学校教育研究会音楽部会相双支部共同研究発表)	2006. 6	福島県高等学校教育研究会音楽部会会場(福島県立福島商業高等学校、あづま荘)
本学のピアノ指導における課題と展望 ～カリキュラムの見直しと教育実習アンケートの結果から～	2013. 6	全国大学音楽教育学会平成 25 年度東北地区学会(仙台市シルバーセンター)
保育者、小学校教諭養成課程における効果的なピアノ指導について	2016. 6	全国大学音楽教育学会平成 28 年度東北地区学会(青森明の星短期大学)
学生主導による表現活動を中心とした授業構成の事例 —仙台白百合女子大学「保育表現技術」授業実践—	2019. 3	日本保育者養成教育学会 第3回研究大会
保育者、小学校教員養成校における連弾学習に適した楽曲の考察 ～中田喜直の連弾曲に焦点を当てて～	2019. 3	全国大学音楽教育学会平成 30 年度関東地区学会第 3 回研究会

学生主導による表現活動を中心とした授業構成の事例Ⅱ—領域表現(音楽・身体・造形)と関連付けて—	2020. 3	日本保育者養成教育学会 第4回研究大会
保育現場でのピアノの活用—保育内容(表現)の視点から—	2020. 3	日本保育者養成教育学会 第4回研究大会
保育者養成校における領域「表現」の遠隔授業の取り組み—ピアノと造形関連の実技系授業の事例—	2021・3	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会
幼児教育・保育の現場で活用できる総合的な表現活動のプログラムの開発に向けて—授業実践と保育者を対象とするアンケートを通して—	2021・3	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会
保育実践力の向上を目指した授業「保育表現技術」の実践—実習前後の発表会の成果を比較して—	2021・3	日本児童学会令和2年度研究集会

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
全国大学音楽教育学会	全国大会実行委員(2011 年度) 東北地区学会研究大会事務局(2013 年度) 第 34 回全国大会実行委員(2017、2018 年度)	2008. 5
日本ピアノ教育連盟	東北支部選挙管理委員(2017 年度) 東北支部運営委員(2018 年度～)	2008. 5
日本音楽教育学会		2014. 5
日本保育者養成教育学会		2018. 11
日本児童学会		2020. 2

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学 人間発達研究センター	2018 年度		インクルーシブ保育における保育教材の研究—特別な配慮が必要な子どもの遊びの場面から—	50,932
	2019 年度		インクルーシブ保育における保育教材の研究—特別な配慮が必要な子どもの遊びの場面から—	235,000
	2020 年度		インクルーシブ保育における保育教材の研究—特別な配慮が必要な子どもの遊びの場面から—	219,000
公財)日本教育公務員弘済会	2020 年度	教育振興事業	保育・幼児教育の現場で活用できる総合的な表現活動のプログラムの開発及びそ	650,000

		助成金	のデータベースの作成	
--	--	-----	------------	--

3. 特記事項

全国保育士養成協議会 保育士資格試験 宮城県保育士試験(実技・音楽) 審査員(2011 年度、2012 年度、2014 年度、2015、2016 年度、2017 年度、2018、2019 年度、2020、2021 年度)

日本ピアノ教育連盟第 36 回 JPTA ピアノ・オーディション東北地区予選 JII 部門審査員(2019 年)

日本ピアノ教育連盟東北支部主催「JPTA 東北 ピアノ・オーディション～動画でチャレンジ～」幼児・J I ・A・C・E 部門審査員(2020 年)

日本ピアノ教育連盟第 36 回 JPTA ピアノ・オーディション東北地区大会 D・E 部門審査副委員長(2021 年)

仙台白百合女子大学 2020 年度教職員合同研修会において「遠隔授業の取組事例」としてピアノ実技授業の事例を報告した。

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	千 凡 晋	職 名 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 (大学名) 東京学芸大学 (取得年月) 2013 年 3 月
-------------	-------	--------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概 要
【教育内容・方法の工夫】 ①アクティブラーニングによる学び合いの実践	2018 年 4 月 ～現在	・幼稚園教諭免許資格取得に関わる「保育内容（表現（造形）」）と小学校教員免許資格に関わる「初等教育教科法（図画工作）」では、乳幼児から小学生まで、子どもの造形表現を支援・指導するために必要な理論且つ実践的学びを行った。現行の保育所保育指針・幼稚園教育要領・学習指導要領に基づき、造形活動の目標と内容の理解を図りながら、子どもの発達特性を考慮し、子どもの造形活動を援助するための支援や指導法を身に付ける。両授業では、学生主体のアクティブラーニングを用い、個別発表やグループワークによる成果物「保育・教育現場で活用できる造形活動のアイデア集」の作成、模擬授業・模擬保育を通して実践力の向上を図った。
②ICT の活用を通じた学習効果の向上と学びの成果の共有	2018 年 4 月 ～現在	・保育所・幼稚園・小学校などで行われる造形活動で用いられる身近な画材・材料と用具の特徴を理解する上で、計画的に制作を行う「子どもと造形 A」と保育園・幼稚園・小学校などで行われる造形活動を支える知識と技能を身につけることを目的に、子どもが楽しく取り組める様々な表現技法と材料の特徴を学び、それを用いて制作を行う「子どもと造形 B」とで、学生全員は製作した作品を用いて、各自のポートフォリオ（B4～A3 判のファイル）を手掛けている。「BAND」というアプリケーションを取り入れ、各授業で製作した作品を載せるようにすることで、学生同士で自由に且つ気軽に鑑賞できるように心かけた。また、ポートフォリオを作成する上で、製作した各作品に対する解説書（技法名、製作の手順、

⑤学生主導による総合的な表現力の向上	2018 年 4 月 ～現在	出向き、人形劇を実演した。また、また卒業研究としてオリジナルの絵本の製作に取り組む。学生主体で手作り絵本の展示会に向けて計画を立てて、スケジュールを調整しながら作業を進め、大学の図書館と連携をし、図書館のロビーで絵本展示会を開催している。 身体・音楽・造形担当の教員により実施している。学生の総合的な表現力の向上を目指し、学生主体により発表会を開催することを主な内容・方法としている。2019 年度からは観客として近隣の保育所の子どもをお呼びし、実施した。発表会を準備した学生はもちろん観客として参加した子ども、保育所関係者からも好評で会った。その授業での成果を研究発表、論文などを通してまとめている。 2020 年度はコロナ禍の状況を踏まえ、総合的な表現力を高めるために、学生主体のプログラムの作成とその実践を行った。
⑥造形表現プログラムの考案と発信方法の工夫	2020 年 4 月～ 現在	人間発達センター研究助成により「家庭で親子が楽しめる造形表現・遊びの教材・プログラムの開発」をテーマに研究を実施した。その成果を「子ども発達総合演習Ⅰ～Ⅳ」にて学生指導に結び付けて実践している。2021 年からは学生と一緒に構想・考案した造形表現活動プログラムを子ども、保護者、保育者向けに発信することを目的に YOUTUBE「造形遊びの遊び」を開設・運営し、関連コンテンツをアップデートしている。また、そのプログラムをまとめて紙面上の冊子を製作している。
⑦韓国・韓国文化・韓国語における取組	2018 年 4 月 ～現在	Quizlet という無料教育アプリケーションを用いて、言語教育（韓国語）の学習セット（ID:senkostudy）を作成し、現在も更新中。2020 年から非常勤講師で実施している韓国語講座で用いている（共同実践）。 また、宮城県内で韓国、韓国文化における理解や日韓交流を図るために美術展や講演会などを企画し、実践している。

【教育方法・教育実践に関する発表・講演】 ①個人研究による成果発表 ②共同研究の成果発表 ③保育者を対象とする研修	2019 年～ 現在に至る 2019 年～ 現在に至る 2019 年～ 現在に至る	子どもの造形活動を支援・指導することに関わる教育実践（領域・指導法）をまとめ、関連学会における口頭発表と研究ノート、研究論文として投稿を行っている。 同学科の教員と共同研究を取り組み、音楽・身体・造形を合わせた総合的な表現活動の授業実践における研究発表と論文投稿を行った。また、同研究メンバーで外部の研究助成金（公益財団法人日本教育公務員弘済会奨励金）を受け、研究を実施した。その成果を学会で発表した。現在、その成果を論文として執筆中である。 上記の「④保育実践力の向上と保育現場との連携」に関連して協力している園の要望でその保育園の職員研修にて、保育所で実践できる造形活動に関する研修を年に 1－2 回程度実施している。
---	--	--

（２）過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	共著者名 （共著の場合）	編者名と当該執筆 者数（編著の場合）	該当頁数
【学位論文】 1．初等学校における絵による心理診断事例研究 2．日本と韓国における「学習指導要領」の変遷に関する比較研究－小学校「美術科」を中心に－ 3．「韓国の初等教育における第 1 次教育課程『美術科』に関する研究－図画・工作・書の教育	単著 単著 単著	2001. 11 2006. 3 2013. 3	高麗大学教育大学院美術教育専攻修了論文（修士学位論文） 東京学芸大学大学院教育学研究科美術教育専攻美術科教育コース修了論文（修士学位論文） 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科芸術系教育			A4 版（99 頁） A4 版（71 頁） A4 版（415 頁）

に関する日韓比較を中心にー」 【論文】 1. H. ガードナーの MI 理論のアジアにおける受容と展開ー中国、韓国、フィリピンの比較分析（査読付き） 2. 韓国と日本との学習指導要領の比較からみた「毛筆による文字教育」（査読付き） 3. 神様の導き 4. 保育実践力の育成を目指す授業内容・方法の研究ー食育と造形表現活動とを結び付けた実践を通してー（査読付き） 5. アクティブラーニングを中心とした「保育表現技術」の授業実践の事例Ⅰー身体・音楽・造形の総合的な表現活動を通した保育実践力の育成を目指してー（査読付き） 6. 自然環境を活かした遊びから芽生える子どもの自発的且つ自主的な造形表現・遊びの可能性ー山形県天童東幼稚園での事例を通してー（査読付き） 7. 小学校教員養成における図画工作科の教材・指導法の研究Ⅰー粘土類を用いた授業実例を通してー（査読付き）			講座修了論文（博士学位論文）			
	共著	2012. 2	東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅰ 第 63 集	渋谷英章、他	渋谷英章他（6 名）	76～78、80～82
	単著	2012. 3	美術科教育学会『美術教育学』第 33 号			301～314
	単著	2020. 3	仙台白百合女子大学カトリック研究所『論集』第 24 号			115～123
	単著	2020. 9	人間発達研究センター紀要『人間の発達』第 14 号			53～65
	共著	2020. 9	人間発達研究センター紀要『人間の発達』第 14 号	仁藤喜久子、他	仁藤喜久子、他（3 名）	39～51
	共著	2021. 9	人間発達研究センター紀要『人間の発達』第 15 号	伊藤清華、千凡晋	伊藤清華、他（2 名）	37～45
	単著	2022. 3	大学美術教育学会『美術教育学研究』第 54 号			193～200

【研究ノート】 1. 幼稚園・小学校における曼荼羅（マンダラ）模様を用いた自然物による造形遊び・表現の可能性 2. 小学校教員養成における図画工作科の教材・指導法の研究の試みー紙粘土と情報機器（カメラ）を用いた授業事例を通して 【研究報告】 アクティブラーニングを中心とした「保育表現技術」の授業実践の事例Ⅱー領域（表現）・保育内容（表現）と関連付けてー（査読付き） 【実践報告】 1. 保育所における食育と関連付けた領域（表現）の実践ー魚をテーマとした造形活動を中心にー 2. 絵本を用いた国際理解の試みー講演会「ようこそ！韓国絵本の世界へ」を通してー 3. 幼稚園教育実習指導の実践ー模擬保育を通じた学生の学びー 【その他（資料集）】 1. 四季を楽しむ創造的な表現活動・遊びの資料集	単著	2020. 3	全国大学造形美術教育教員養成協議会『大学造形美術教育研究』18号	四家昌博、他	四家昌博、他（3名）	44～47
	単著	2021. 3	全国大学造形美術教育教員養成協議会『大学造形美術教育研究』19号			46～49
	共著	2020. 10	日本児童学会『児童研究』第99巻			48～58
	単著	2020. 3	全国大学造形美術教育教員養成協議会『大学造形美術教育研究』18号			48～51
	単著	2022. 2	『仙台白百合女子大学教職課程研究センター報』第1号			89～94
	共著	2022. 2	『仙台白百合女子大学教職課程研究センター報』第1号			23～30
	共著	2021. 3	日本教育公務員弘済会「令和2年度日教弘奨励金助成研究」資料集			A4版（45頁）

2. 学生の学びの成果を生かした地域貢献の可能性 －手作り段ボール遊具による地域の子どもとの触れ合いを通して－	単著	2021. 4	全国大学造形美術教育教員養成協議会『全美協メールマガジン』第 43 号			A4 版（7 頁）
3. 親子で一緒に楽しめる造形表現・遊び	単著	2022・2	「人間発達研究センター助成研究」成果資料集			A4 版（28 頁）

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	共訳者名 （共訳の場合）	監修者名と当該訳者 数（監訳書の場合）	該当頁数
なし						
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月 （西暦）	発表場所		
1. 韓国と日本の毛筆による文字教育の比較研究－学習指導要領を中心に－			2008. 8	第 32 回 InSEA（国際美術教育学会）世界大会 in 大阪(単独・口頭発表)		
2. 小学校美術科教科書の比較研究－韓国の第 1 次教育課程期のものと日本の昭和 26 年版学習指導要領期のものを中心として－			2011. 9	日本教育大学協会全国美術部門協議会第 50 回大学美術教育学会宮城大会(単独・ポスター発表)		
3. 韓国の初等教育に於ける第 1 次教育課程「美術科」に関する研究－教科目標における韓・日・米の比較を中心に－			2013. 3	第 35 回美術科教育学会島根大会(単独・口頭発表)		
4. Effects of the artistic activities on mental and physical health in the elderly: Preliminary survey report（口頭発表）			2017. 6	第 4 回人間脳科学セミナー(単独・口頭発表)		

5. Effects of the Artistic Activities on Mental and Physical Health in the Elderly	2018. 8	韓国心理学会第 72 回学術大会（共同・ポスター発表）
6. 芸術活動が高齢者の心身健康に及ぼす影響に関する調査	2018. 9	日本心理学科第 82 回大会（共同・ポスター発表）
7. 学生主導による表現活動の中心とした授業構成の事例	2019. 2	日本保育者養成教育学会第 3 回研究大会（共同・口頭発表）
8. 学生主導による表現活動を中心とした授業構成の事例Ⅱー領域表現（音楽・身体・造形）と関連付けてー	2020. 2	日本保育者養成教育学会第 4 回研究大会（共同・口頭発表）
9. 保育者養成課程における保育内容（表現）の授業実践に関する一考察ー造形表現における学生の自主的な学びを目指してー	2020. 2	日本保育者養成教育学会第 4 回研究大会（共同・口頭発表）
10. 自然との関わりから芽生える自発的な表現活動の可能性ー自然素材（土粘土）を用いた造形活動を中心にー	2020. 11	日本自然保育学会第 5 回大会（共同・口頭発表）
11. 保育者養成校における領域「表現」の遠隔授業の取り組みーピアノと造形関連の実技系授業の事例ー	2021. 3	日本保育者養成教育学会第 5 回研究大会（共同・口頭発表）
12. 幼児教育・保育の現場で活用できる総合的な表現活動のプログラムの開発に向けてー授業実践と保育者と対象とするアンケートを通してー	2021. 3	日本保育者養成教育学会第 5 回研究大会（共同・口頭発表）
13. 保育実践力の向上を目指した授業「保育表現技術」の実践ー実習前後の発表会の成果を比較してー	2021. 3	日本児童学会令和 2 年度研究集会（共同・口頭発表）

14. 親子で行う造形表現・遊びがもたらす効果についてー活動前後のアンケート調査を通してー	2021. 3	日本児童学会令和 2 年度研究集会(単独・口頭発表)
【作品出品】 1. 「꽃이 피다 (花が咲く)」の他、7 点 2. 「隠れん坊」Ⅱ－2 3. 「숨바꼭질; 꼭 꼭 숨어라 (隠れん坊)」Ⅲ 4. 「숨바꼭질; 꼭 꼭 숨어라 (隠れん坊)」Ⅳ 5. 「아이 (愛・I・子ども)」の他、6 点 6. 「No title」の他、8 点	2009. 12. 1～6 2015. 10. 21～27 2016. 9. 9～15 2018. 1. 17～23 2019. 2. 12～24 2019. 6. 18～23	異心圓 Vol. 2－1 ※アートホール招待展 ※日韓交流基金の助成により開催 「日韓国交正常化 50 周年記念」2015 日韓美術交流展 in 仙台 (駐仙台大韓民国総領事館) ※大韓民国外交部支援助成により開催 「韓日国交正常化 50 周年記念」2016 韓日美術交流展 in 全州－疎通－(全北芸術会館) ※全羅北道文化観光財団・(公財) 未来の東北博覧会記念国際交流基金の助成により開催 Good works good life 展 (韓国・ギャラリーSUN) short short pieceー仙台アーティストランプレイス小品展ー(ギャラリーSARP) 取っ替ゑ、引っ替ゑ、すり替ゑ展 (ギャラリーSARP)

7. 「隠れん坊 2020: ‘UTC+9’」の他、3 点	2020. 10. 15～ 12. 9	「2020 韓一日交流展 in 全州」－Across and Connect Endless－（ギャラリーSeohak） ※韓国国民体育振興基金の「2020 年展示空間活性化支援事業」の助成により開催
8. 「隠れん坊 2021: ‘UTC+9’ 光」の他、2 点	2021. 11. 27～ 12. 2	2021 年日韓美術交流展 in Sendai-TRUST-（東京エレクトロンホール） ※大韓民国外交部支援助成により開催
9. 「Blessing」	2022. 3. 8～13	取っ替ゑ、引っ替ゑ、すり替ゑ展Ⅷ（ギャラリーSARP） ※ウクライナ支援チャリティー展示

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）
大学美術教育学会（～現在） 日本臨床美術学会（～現在） 日本保育者養成教育学科（～現在） 全国大学造形美術教育教員養成協議会（～現在） 日本老年社会科学会（～現在）		2008 年 3 月 2013 年 6 月 2018 年 10 月 2019 年 4 月 2019 年 6 月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度 （西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 （円）
公益財団法人 日本教育公務員弘済会	2020	日教弘本部奨励金	乳幼児教育の現場で活用できる総合的な活動のプログラムの開発及びそのデータベースの作成	650,000 円
人間発達センター	2020	研究助成	家庭で親子が楽しめる造形表現・遊びの教材・プログラムの開発	192,000 円
	2021	研究助成	家庭で親子が楽しめる造形表現・遊びの教材・プログラムの開発（継続）	128,800 円

3. 特記事項

(非常勤講師)

1. 東北学院大学非常勤講師 (2015. 4～2017. 3) (2020. 4～)
2. 東北福祉大学非常勤講師 (2017. 9～2018. 3)
3. 韓国教育院主催・子ども韓国語教室「ハングル学校宮城」非常勤講師 (2015. 4～2017. 3)
4. 台湾・高雄国立大学【亞洲共同體專題講】非常勤講師 (2019. 10. 23 / 2020. 11. 25)
5. 東北福祉大学【アジア共同体に向けて】非常勤講師 (2019. 11. 27 / 2020. 12. 9 / 2021. 11. 24)

(講演会・研修会)

1. 宮城県警察通訳センター外国語研修会の韓国語講師 (2015. 5)
2. 宮城県警察学校専科韓国語講座 (2015. 6)
3. 宮城県警察通訳センター外国語研修会の韓国語講師 (2016. 2)
4. 宮城県警察通訳センター外国語研修会の韓国語講師 (2017. 10)
5. 宮城県警察通訳センター外国語研修会の韓国語講師 (2018. 8)
6. 東北管区警察本部 (2018. 8)
7. 宮城県警察通訳センター外国語研修会の韓国語講師 (2019. 2)
8. 台湾・高雄国立大学【亞洲共同體專題講】での講演：「座亞洲各國高齢人口問題と發展藝術活動之可能性」(2019. 10)
9. 東北福祉大学【アジア共同体に向けて】での講演：「アジア諸国の高齢者問題と芸術活動の可能性」(2019. 11)
10. 宮城県警察通訳センター外国語研修会の韓国語講師 (2020. 1/2)
11. 明石南子どもの城保育園の職員研修 (2020. 11)
12. 宮城県警察通訳センター外国語研修会の韓国語講師 (2021. 1/2)
13. 明石南子どもの城保育園の職員研修 (2回) (2021. 1/2021. 9)
14. 「ようこそ！韓国絵本の世界へ」講演会/企画及び司会・進行(2021. 6/7/8/9/12/12) (主催：駐仙台大韓民国総領事館・仙台白百合女子大学)
15. 明石南子どもの城保育園の職員研修 (2022. 1)
16. 宮城県警察通訳センター外国語研修会の韓国語講師 (2022. 1/2)

(公的文の翻訳)

宮城県警察本部依頼：市民・外国人対象の案内文の翻訳 (2016. 12)

青森県警察本部依頼：市民・外国人対象の案内文の翻訳（2017. 8）

宮城県警察本部依頼：市民・外国人対象の案内文の翻訳（2017. 12）

宮城県警察本部依頼：市民・外国人対象の案内文の翻訳（2018. 3）

宮城県警察本部依頼：市民・外国人対象の案内文の翻訳（2018. 12）

宮城県警察本部依頼：市民・外国人対象の案内文の翻訳（2019. 12）

宮城県警察本部依頼：市民・外国人対象の案内文の翻訳（2020. 2）

宮城県警察本部依頼：市民・外国人対象の案内文の翻訳（2021. 3）

（研究関連）

1. 東北大学加齢医学研究所研究員（2017. 4～2018. 3） / 現在、分野研究員

研究テーマ：「芸術活動が高齢者の心身研究に及ぼす影響」、現在進行中。

2. 東北地域の韓国学のための研究メンバー（2018. 11～2020. 3）

- ・研究テーマ：日本東北地域内韓国学の基盤造成：災害と在日韓国人を中心に
- ・研究メンバー：東北大学を基盤施設とし、東北内の三つの大学の教員が研究メンバーとして参加
- ・韓国学振振興事業研究助成金「海外韓国学種型事業」の助成金の選定

（研究助成による研究）

1. 【日教弘本部奨励金（公益財団法人 日本教育公務員弘済会）】

研究テーマ：「乳幼児教育の現場で活用できる総合的な活動のプログラムの開発及びそのデータベースの作成」（共同研究）

研究メンバー：四家昌博・千凡晋・仁藤喜久子・大木葉子

2. 【人間発達センター研究助成】

1. 研究テーマ：「家庭で親子が楽しめる造形表現・遊びの教材・プログラムの開発―共働きの家族を対象に―」（単独研究）（2020）

2. 研究テーマ：「家庭で親子が楽しめる造形表現・遊びの教材・プログラムの開発―学生指導と ICT を活用した情報発信の可能性を探って―」（単独研究）（2021）

（国際交流）

1. 『『日本国交正常化 50 周年記念』2015 年日韓美術交流展 in 仙台』（駐仙台大韓民国総領事館助成事業選定）の企画・運営（2015. 9）

2. 『『日本国交正常化 50 周年記念』2016 年日韓美術交流展 in 全州』（全羅北道文化観光財団・（公財）未来の東北博覧会記念国際交流基金の助成）の企画・運営（2016. 10）

3. 国際交流センター：本学と国際交流をしている韓国大学との協定・韓国短期留学（誠信女子大学）のサポート（2019. 3. 3～6）
4. 2019 年 ASEACCU 参加（韓国・Sogang Univ. 2019. 9. 20～23）
5. 人間発達学科と誠信女子大学幼児教育科との交流の企画・窓口・実行（2019. 3～現在）
6. 人間発達学科の海外教育・保育現場体験研修の企画・実行（2020. 9 月に予定していたが、Covid19 により 2023 年度に延期）
7. 韓日交流展示会「韓日交流展—交叉と連結」（韓国文化芸術連合会展示支援事業選定）/日本側作家代表及びシンポジウム企画、運営（2020. 10. 15～12. 9）
8. 日韓交流展示会「2021 年日韓美術交流展」（駐仙台大韓民国総領事館助成事業選定）/展示会の企画・運営及び実行委員会の代表（2021 年 11 月 27 日～12 月 2 日東京エレクトロンホールでの開催）
10. 「ようこそ！韓国絵本の世界へ」講演会（6 月 12 日/7 月 10 日/8 月 7 日/9 月 11 日/12 月 4 日/12 月/18 日）
（主催：駐仙台大韓民国総領事館・仙台白百合女子大学）
11. ボランティア団体「東北日韓友好交流連合会」の創立メンバー（顧問）（2022. 4～）

（地域貢献）

1. 授業で製作した段ボール遊具を保育所「明石南子どもの城」に寄付（2019. 1. 29）
2. 「泉マルシェ 2019」に参加し、本学のブースに訪問した子どもたちにフェイス・ペインティングを行う。（2019. 9. 14）
3. 授業で製作した段ボール遊具を認定子ども園「とみや杜の橋子ども園」に寄贈（2019. 12. 19）
4. 授業で製作した段ボール遊具を「明石南子どもの城」「桂子どもの城」に寄贈（2020. 2. 9）
5. 子どもを対象として手作り人形劇の実演「明石南子どもの城」（2021. 11. 18）/「桂子どもの城」（2021. 12. 16）
6. 授業で製作した段ボール遊具を「アルシュ富谷子ども園」に寄贈（2022. 5. 16）

（その他）

1. （学科横断ゼミ構想）2021 年度「SPAC ゼミ」の学内協力メンバー（代表：菅原詩緒理先生）
2. （FD 研修）仙台白百合女子大学 2020 年度教職員合同研修会において「遠隔授業の取組事例」として造形実技授業の事例を報告。

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	ロ コウショウ 呂 光暁	職 名 人間学部 人間発達学科	取得学位 (大学名)	博士(教育学) 筑波大学 (取得年月) 2017 年 3 月
-------------	-----------------	--------------------	---------------	-----------------------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
①教育内容・方法の工夫(授業評価を含む)		
マルチメディア機器を活用した授業	2018 年 4 月～	「ハエのいない町(1950)」の映像を視聴させることで、当時における授業活動の実際の様子を通して、初期社会科における問題解決学習に対する受講生の理解を深めた。
実習を活用した授業	2018 年 4 月～	典型的な授業実践を学習させた上で、思考力・判断力・表現力・問題解決能力の育成を図る社会科の指導方法を探究させ、実際に学習指導案を作成し、模擬授業に取り組みさせたことで、教育実技の向上を促進した。
成績評価の取り組み	2018 年 4 月～	授業では、毎回「復習課題」を設定し、授業内容に対する理解・感想を書かせた。受講生の日々の成長を含めた学習評価と最終の総括的評価の両者を駆使し、各学生の実態に即した評価を行った。
学習支援の取り組み	2018 年 4 月～ 2018 年 4 月～	「振り返りシート」で、毎回の授業における学生自身の考えを記録させて定期的に振り返らせることで、自ら課題を発見し解決していくような学習意識と習慣を身に付けさせた。 教科教育法の授業では、学習指導案の作成練習と模擬授業の実施を充実させるために、受講生が準備・練習する時間を十分に保障するように、学習指導要領の学びと連動させて、より早い段階からの模擬授業のテーマ決定、授業指導案の作成に着手させることで、より完成度の高い模擬授業の実施を促進した。
②作成した教科書、教材、参考書		
	2018 年 3 月 2018 年 3 月	『MINERVA はじめて学ぶ教科教育③ 初等社会科教育』第 14 章 中華人民共和国の初等社会科教育」初等社会科を中心として、社会科教育の在り方や特質を系統的に解説した本書の、第 14 章「中華人民共和国の初等社会科教育」の執筆を担当した。本書は社会科教員養成のための教材となっている。 『21 世紀の教育に求められる「社会的な見方・考え方」』第 6 節 経済教育において社会的事象の見方・考え方を育成する初等社会科授業—経済に関する児童の素朴理論に基づいて— 社会的な見方・考え方の中身、特徴そして育成方法を理論的・実践的に解説した本書の、第 1 章第 6 節「中華人民共和国の初等社会科教育」の執筆を担当した。本書は社会科教員養成のための教材となっている。

	2021 年 6 月	新・教職課程演習第11巻 初等社会科教育, 第1章「Q4社会科の目標に示された公民としての資質・能力について述べなさい」第7章「Q2地域の生産や販売の仕事と地域の安全を守る働きの教材研究の視点について述べなさい」
③教育方法・教育実践に関する発表、講演		
	2018 年 7 月	「素朴理論を用いた経済教育のあり方」、於仙台白百合女子大学人間発達研究センター
④その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
著書						
『MINERVA はじめて学ぶ教科教育③ 初等社会科教育』「第 14 章 中華人民共和国の初等社会科教育」	共著	2018.3	ミネルヴァ書房	井田仁康, 村井大介, 國分麻里, 篠崎正典, 唐木清志, 桐谷正信, 中山正則, 粕谷昌良, 梅澤真一, 大山喜裕, 山下真一, 金ヒョン辰, 川崎誠司		139～148
『21 世紀の教育に求められる「社会的な見方・考え方」』「第 6 節 経済教育において社会的事象の見方・考え方を育成する初等社会科授業—経済に関する児童の素朴理論に基づいて—」	共著	2018.3	帝国書院	唐木清志, 磯山恭子, 小野智一, 宮崎沙織, 鎌田公寿, 得居千		54～63

				照，井田仁 康，金玆辰， 大高皇，國原 幸一朗，泉貴 久，小林岳 人，國分麻 里，篠崎正 典，熊田禎 介，佐藤公， 野口剛，江口 勇治，華井裕 隆，加納隆 徳，小貫篤， 坪田益美，内 山知一，久保 園梓，村井大 介		
新・教職課程演習第11巻 初等社会科教育，第1章「Q4社会科の目標に示された公民としての資質・能力について述べなさい」 第7章「Q2地域の生産や販売の仕事と地域の安全を守る働きの教材研究の視点について述べなさい」	共著	2021.6	協同出版	唐木清志・永 田忠道編著， 呂光暁・他 26 名		17～19 149～151
論文						
離島における福祉教育の開発—新潟県粟島浦村を事例として—	単著	2017.8	筑波大学博士課程人間総合 科学研究科学学校教育学専攻 「社会科教育学特講」調査論 文集『地域と教育』第16号			1～22
学習指導要領の変化から見た小学校社会科教育の方向性 —経済学習を中心として—	単著	2019.11	白鷗大学教育学部『白鷗大学 教育学部論集』第13巻第2号			115～134

心理志向の経済教育論の展望—経済教育の課題を踏まえて—	単著	2020.5	白鷗大学教育学部『白鷗大学教育学部論集』第 14 巻第 1 号			193～218
日本における社会科教育研究の動向(2019 年度)	単著	2020.12	日本社会科教育学会『社会科教育研究』第 141 号			84～95
中国のキリスト教と宗教の必要性について	単著	2021.3	仙台白百合女子大学カトリック研究所『論集』第 25 号			77～81
経済的思考の特質と育成方法—社会的認知と経済的社会化に着目して—	単著	2021.3	仙台白百合女子大学『仙台白百合女子大学紀要』第 25 号			33～46
モデルプラン 3 職業選択(小学校社会科第 3 学年・第 5 学年)	単著	2021.4	日本公民教育学会 2017(平成 29)年度～2019(平成 31)年度基盤研究(B)新科目「公共」を核とした公民教育を小中高等学校で効果的に推進するための調査研究研究成果報告書			1 頁
モデルプラン 15 金融の働き(小学校社会科第 3 学年・第 5 学年)	単著	2021.4	日本公民教育学会 2017(平成 29)年度～2019(平成 31)年度基盤研究(B)新科目「公共」を核とした公民教育を小中高等学校で効果的に推進するための調査研究研究成果報告書			1 頁
大学の教職課程におけるICT 活用の試み—社会科を中心に—	単著	2022.2	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報 第 1 号 仙台白百合女子大学教職課程研究センター			39～47

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
なし						
学術研究発表						
発表テーマ		発表年月(西暦)	発表場所			
心理志向の経済教育論の可能性に関する検討		2017 年 9 月	日本社会科教育学会第 65 回全国研究大会、於千葉大学			
素朴理論を用いた経済教育のあり方		2018 年 7 月	仙台白百合女子大学人間発達研究センター			
学習指導要領の変化から見た小学校社会科教育の方向性 ―経済学習を中心として―		2019 年 6 月	日本公民教育学会第 30 回全国研究大会、於九州大学			
小学校社会科における経済的思考をどう育成するか―子どもの社会的認知に着目して―		2019 年 9 月	日本社会科教育学会第 69 回全国研究大会、於新潟大学			
子どもの社会認識の形成を目指す単元開発―中学校2年生を対象に―		2021 年 6 月	日本公民教育学会第 31 回全国研究大会 於大阪教育大学 (zoom 参加)			

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会科教育学会	幹事、事務局広報担当	2012 年 4 月
中等社会科教育学会	会員	2012 年 4 月
経済教育学会	会員	2012 年 4 月
日本公民教育学会	会員	2013 年 4 月
全国社会科教育学会	会員	2015 年 6 月
筑波大学教育学会	会員	2018 年 2 月
日本カリキュラム学会	会員	2018 年 8 月
日本教師教育学会	会員	2018 年 8 月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会	2019-2021	学術研究助成 基金助成金(若 手研究)	経済的思考を育成する教育方法論の開発—素朴理論から科学的理論へ—	4,290,000

3. 特記事項

2015 年 9 月 26 日	経済教育学会奨励賞受賞
2016 年 3 月 17 日	筑波大学学長表彰受賞
2016 年 11 月 5 日	日本社会科教育学会賞(論文部)受賞
2017 年 3 月 24 日	筑波大学人間総合科学研究科長賞受賞

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	ニトウ キクコ 仁 藤 喜久子	職 名 人間学部	講師 人間発達学科	取 得 学 位 (大学名)日本女子体育大学 / 玉川大学 (取得年月)2006.3 2015.3
-------------	--------------------	-------------	--------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 改訂新版保育内容「健康」—生きる力を育む健やかな心とからだ—	2017.9	保育士・幼稚園教諭免許取得を目指す学生向けの教科書である。保育所保育指針及び幼稚園教育要領改訂に伴い「領域(健康)」の内容を改訂した。
2. 運動あそび・表現あそび—指導法を身につける理論と事例—	2018.9	保育士・幼稚園教諭免許取得を目指す学生向けの教科書である。保育所保育指針及び幼稚園教育要領改訂に伴い、「子どもと体育」および「領域表現(身体)」の内容を改訂した。
3. 乳幼児の健康—教育・保育に向けた計画と実践—	2019.9	保育士・幼稚園教諭免許取得を目指す学生向けの教科書である。保育所保育指針及び幼稚園教育要領改訂に伴い、「領域(健康)」の内容をまとめている。
4. 実践事例で学ぶ 10 の姿と生活科	2020.4	保育士・幼稚園教諭免許取得を目指す学生向けの教科書である。保育所保育指針及び幼稚園教育要領改訂に伴い、「生活科」で取り上げる内容について、具体的事例を通して学ぶことができるようまとめている。
5. 教えと学びを考える学習・発達論	2022.2	幼稚園教諭・小学校・中学校教諭免許取得を目指す学生向けの教科書である。幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についてまとめている。
6. オンライン授業に対応 乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび～からだところを育む指導法～	2022.3	保育士・幼稚園教諭免許取得を目指す学生向けの教科書である。「子どもと体育」および「領域(表現(身体))」の内容をまとめている。

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
【著書】						
1. 改訂新版保育内容「健康」－生きる力を育む健やかな心とからだ－	共著	2017.9	大学図書出版	宮下恭子他	宮下恭子編(9名)	2(135)
2. 運動あそび・表現あそび－指導法を身につける理論と実例－	共著	2018.9	大学図書出版	宮下恭子他	宮下恭子編(10名)	13(140)
3. 乳幼児の健康－教育・保育に向けた計画と実践－	共著	2019.9	大学図書出版	茗井香保里・宮下恭子・平山素子他	茗井香保里・宮下恭子・平山素子編(7名)	10(161)
4. 実践事例で学ぶ 10 の姿と生活科	共著	2020.4	大学図書出版	中村俊哉・田中浩之他	中村俊哉・田中浩之編著(9名)	10(140)
5. 教えと学びを考える学習・発達論	共著	2022.2	玉川大学出版	岩田恵子他	岩田恵子編(10名)	12(322)
6. オンライン授業に対応乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび～からだところを育む指導法～	共著	2022.3	大学図書出版	茗井香保里・宮下恭子他	茗井香保里・宮下恭子・平山素子編(12名)	10(189)
【論文・報告】						
7. 保育者養成課程におけるリカレント教育の課題	共著	2018.1	仙台白百合女子大学紀要第22号	岩淵摂子・中村俊哉	(3名)	12
8. 女子大学生における体力と摂取栄養素の関連(報告)	共著	2018.3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要第12号	菅原詩緒理	(2名)	2
9. 小規模保育における屋外遊び場の環境実態	単著	2018.3	日本幼児体育学研究第10巻1号			7
10. 屋外遊技場の代替施設(公園利用)の環境実態－宮城県仙台市を事例に－	共著	2019.9	日本児童学会「児童研究」VOL.98	近藤洋子	(2名)	8

11. 子育て中の保護者の食に関する実態調査(報告)	共同	2020.9	仙台白百合女子大学人間発達センター紀要第14号	菅原詩緒理	(2名)	2
12. アクティブ・ラーニングを中心とした「保育表現技術」の授業実践の事例Ⅰ—身体・音楽・造形の総合的な表現活動を通した保育実践力の育成を目指して—	共著	2020.9	仙台白百合女子大学人間発達センター紀要第14号	四家昌博・千凡晋	(3名)	20
13. アクティブ・ラーニングを中心とした「保育表現技術」の授業実践の事例Ⅱ—領域(表現)・保育内容(表現)と関連付けて—	共著	2020.9	日本児童学会「児童研究」VOL.99	四家昌博・千凡晋	(3名)	16
14. 幼児期から大学生期における公園・遊び場の利用に関する研究Ⅰ—大学生のアンケート調査及び新体力テストをもとに—	共著	2020.9	日本児童学会「児童研究」VOL.99	荻須隆雄・近藤洋子・高島次郎・福田誠・木村美佳	(6名)	20
15. 幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド	共著	2020.3	厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイドの開発に関する研究	石川みどり・衛藤久美他	(27名)	7(57)
16. 保育士養成施設における保育士の魅力向上に関する調査研究	共著	2021.3	全国保育士養成協議会(令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業)	高橋貴志・矢藤誠慈朗・伊藤理絵・加賀谷崇文・熊谷享子・江津和也・平沼晶子・渡辺行野	(10名)	10(167)
17. 学童期の学習習慣と生活習慣の関連—スポーツクラブ所属児童の特性を中心に—	共著	2021.3	玉川学園・玉川大学健康・スポーツ科学研究紀	近藤洋子	(2名)	11

18. 学童期の学習習慣と生活習慣の関連－女子児童の特性を中心に－	共著	2022.3	要第 21 号 玉川学園・玉川大学健康・スポーツ科学研究紀要第 22 号	近藤洋子	(2 名)	12
19. 仙台白百合学園における幼稚園と小学校の連携 I	共著	2022.3	仙台白百合女子大学教職センター報第 1 号	細渕元	(2 名)	7
20. 仙台白百合学園における小大連携の取組み－生活科 1 年単元「昔遊び」を事例に－	共著	2022.3	仙台白百合女子大学教職センター報第 1 号	畑中里香・石原タ子	(3 名)	7
21. レクリエーション・インストラクター養成課程認定校としての取組－2021 年度活動報告－	共著	2022.3	仙台白百合女子大学教職センター報第 1 号	家子敦子	(2 名)	5
22. 幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド(2022 年度改訂版)	共著	2022.3	厚生労働行政推進調査事業費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援にむけた効果的な展開のための研究	衛藤久美・石川みどり他	(20 名)	10(85)

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
・4 年制保育者養成校におけるリカレント教育の課題			2017.3	第 1 回日本保育者養成教育学会(東京)ポスター発表		
・幼児表現活動に関する指導の在り方－コラージュ制作を通じて－			2017.5	第 70 回日本保育学会(岡山)ポスター発表		

・保育者養成校における野外活動の取り組みー冬季自然体験に着目してー	2017.5	第 70 回日本保育学会(岡山)ポスター発表
・自然環境の素材を活かした幼児表現活動の一考察ー木の葉のコラージュ制作を事例にー	2017.11	第 2 回日本自然保育学会(長野)ポスター発表
・幼稚園・小学校教諭を目指す大学生の健康・体力調査(第 2 報)ー教員養成課程と管理栄養士課程の比較ー	2017.11	日本学校保健学会第 64 回学術大会(仙台)ポスター発表
・保育者を目指す学生の表現力向上を目指して(1)	2018.3	第 2 回日本保育者養成教育学会(東京)ポスター発表
・保育者を目指す学生の表現力向上を目指して(2)	2018.3	第 2 回日本保育者養成教育学会(東京)ポスター発表
・幼稚園・認定こども園・保育所等における食育活動に関する研究	2018.12	日本学校保健学会第 65 回学術大会(大分)口頭発表
・学生主導による表現活動を中心とした授業構成の事例	2019.3	第 3 回日本保育者養成教育学会(仙台)口頭発表
・保育と健康の融合ー保育現場における多種職が連携した偏食への対応	2019.6	第 66 回日本小児保健学術集会(東京)口頭発表
・子育て中の保護者の食に関する実態調査	2019.6	第 66 回日本小児保健協会学術集会(東京)ポスター発表
・学生主導による表現活動を中心とした授業構成の事例Ⅱー領域表現(音楽・身体・造形)と関連付けてー	2020.3	第 4 回日本保育者養成教育学会(広島)口頭発表
・子育て中の保護者の加工食品摂取頻度に関する実態調査	2020.11	第 67 回日本小児保健協会学術集会(zoom)ポスター発表
・自然保育で育まれる子どもたちの成長ーえがおのはさくみんなのほいくえん・食と森の保育園美里を事例にー	2020.11	第 5 回日本自然保育学会(zoom)口頭発表
・自然活動は子どもたちにどのような影響をもたらすのかー森のようちえん虹の森の活動からの検討ー	2020.11	第 5 回日本自然保育学会(zoom)口頭発表
・乳幼児期に自然の中であそぶ取組についてーわだつみ保育園を事例にー	2020.11	第 5 回日本自然保育学会(zoom)口頭発表
・自然環境とダイナミックな身体表現ー天童東保育園の取り組みからー	2021.3	第 16 回日本幼児体育学会(zoom)口頭発表
・自然豊かな環境により育まれる身体活動ーわかさ幼稚園の実践からー	2021.3	第 16 回日本幼児体育学会(zoom)口頭発表
・幼児教育・保育の現場で活用できる総合的な表現活動のプログラムの開発に	2021.3	第 5 回日本保育者養成教育学会(zoom)口頭発表

向けて一業実践と保育者を対象とするアンケートを通してー		
・保育実践力の向上を目指した授業「保育表現技術」の実践―実習前後の発表会の成果を比較して	2021.3	令和2年度日本児童学会研究発表集会(zoom)口頭発表
・児童期の運動スポーツ経験と保護者意識	2021.3	令和2年度日本児童学会研究発表集会(zoom)口頭発表

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本幼児体育学会	一般会員	2006.4～現在
日本小児保健協会(学会)	一般会員	2010.4～現在
日本保育学会	一般会員	2010.4～現在
日本レジャー・レクリエーション学会	一般会員	2012.4～現在
日本学校保健学会	一般会員	2015.4～現在
日本自然保育学会	一般会員	2016.4～現在
日本保育者養成教育学会	一般会員	2016.4～現在

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学人間発達研究センター	2018.4～2019.3	母子の食品及び栄養摂取の調査プログラム(共同)	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	39万5千円
仙台白百合女子大学人間発達研究センター	2019.4～2020.3	母子の食品及び栄養摂取の調査プログラム(共同)	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	30万円
仙台白百合女子大学人間発達研究センター	2020.4～2021.3	母子の食品及び栄養摂取の調査プログラム(共同)	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	30万円
日本教育公務員弘済会	2020.4～2021.3	令和2年度日教	保育・幼児教育の現場で活用できる総合的な表現活動のプログラムの開発及びそ	65万円

仙台市泉区いずみ絆プロジェクト	2020.4～2021.3	弘本部奨励金 いずみ絆プロジェクト支援事業	のデータベースの作成 しらゆり森のようちえん＆森のしょうがっこう～自然・木育あそびプロジェクト～	10 万円
仙台白百合女子大学人間発達研究センター	2021.4～2022.3	母子の食品及び栄養摂取の調査プログラム（共同）	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	27 万 3 千円
仙台市泉区いずみ絆プロジェクト	2021.4～2022.3	いずみ絆プロジェクト支援事業	しらゆり森のようちえん＆森のしょうがっこう～みんなであそぼうプロジェクト～	10 万円
日本レクリエーション協会	2021.9～2022.3	健康スポレクひろば	健康スポレクひろば～仙台白百合女子大学会場～	10 万円

3. 特記事項

- ・小規模保育事業森のプーさん保育園「保護者会」講師（2017.2）
- ・東京都世田谷区立桜丘小学校「保護者会」講師（2017.7）
- ・宮城県私立幼稚園協議会「免許更新講習」講師（2019.3）
- ・仙台白百合女子大学「出張公開講座」講師 仙台白百合学園高等学校（2020..2）
- ・仙台市泉区いずみ絆プロジェクト支援事業開催（2020.10～2021.3）
- ・宮城県私立幼稚園協議会「免許更新講習」講師（2020.12）
- ・仙台市泉区いずみ絆プロジェクト支援事業開催（2021.9～2022.3）
- ・仙台白百合女子大学「出張公開講座」講師 ホテル佐勘（2021.9）
- ・日本レクリエーション協会「健康スポレクひろば」開催（2021.7～2022.3）

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ まつよし しんいち 氏 名 松好 伸一	職 名 講師 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 教育学修士 (大学名)東北大学大学院 (取得年月) 2017 年 3月
-----------------------------	-----------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1)過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
コンパクト版保育者養成シリーズ 新版乳児保育	2018 年 3 月	保育者養成課程「乳児保育(旧カリ)」の教科書
よくわかるシリーズ 乳児保育Ⅰ	2020 年 3 月	保育者養成課程「乳児保育Ⅰ」の教科書
よくわかるシリーズ 乳児保育Ⅱ	2020 年 3 月	保育者養成課程「乳児保育Ⅱ」の教科書
よくわかるシリーズ 子ども家庭支援論	2020 年 3 月	保育者養成課程「子ども家庭支援論」の教科書
幼児教育方法論	2022 年 3 月	保育者養成課程「幼児教育方法論」の教科書

(2)過去5年間の研究業績

Ⅰ 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
「森の幼稚園」が幼児の人間関係に及ぼす影響に関する研究	単著	2017 年 3 月	小田原短期大学研究紀要 47 号			pp.230-235
コンパクト版保育者養成シリーズ 新版乳児保育	共著	2018 年 3 月	一藝社	松好伸一 他 14 名		pp.113-120
よくわかるシリーズ 乳児保育Ⅰ	共著	2020 年 3 月	一藝社	松好伸一 他 15 名		PP113-120

よくわかるシリーズ 乳児保育Ⅱ	共著	2020 年 3 月	一藝社	松好伸一 他 11 名		pp113-120
よくわかるシリーズ 子ども家庭支援論	共著	2020 年 3 月	一藝社	松好伸一 他 14 名		pp41-48
「森の幼稚園」が領域「健康」において子どもの発達に及ぼす影響に関する研究	単著	2020 年 3 月	専修大学北上福祉教育専門学校研究紀要第 5 号			pp45-53
「森の幼稚園」が領域「言葉」において子どもの発達に及ぼす影響に関する研究	単著	2020 年 3 月	専修大学北上福祉教育専門学校研究紀要第 5 号			pp54-62
「森の幼稚園」が領域「環境」において子どもの発達に及ぼす影響に関する研究	共著	2020 年 3 月	専修大学北上福祉教育専門学校研究紀要第 5 号	渡邊好美		pp63-77 内 pp63-68,pp76-77
コロナ禍における保育者養成校の在り方について	単著	2021 年 3 月	専修大学北上福祉教育専門学校研究紀要第 6 号			pp28-47
幼児教育方法論	共著	2022 年 3 月	一藝社	松好伸一 他 14 名		pp49-56

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
「森の幼稚園」が子どもの発達に及ぼす影響に関する研究			2017 年 3 月	日本発達心理学会第 28 回大会		
「森の幼稚園」が領域「健康」において子どもの発達に及ぼす影響に関する研究			2018 年 3 月	日本発達心理学会第 29 回大会		

「森の幼稚園」が領域「言葉」において子どもの発達に及ぼす影響に関する研究	2019 年 3 月	日本発達心理学会第 30 回大会
--------------------------------------	------------	------------------

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本発達心理学会 日本自然保育学会 日本保育者養成教育学会 日本発達支援学会	監事・広報委員	2014 年3月 2016 年9月 2017 年3月 2019 年4月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

小田原短期大学通信課程 非常勤講師(保育内容言葉、保育内容環境)((2016 年 4 月～2017 年 3 月) 東京福祉大学通信課程 非常勤講師(幼児教育)(2017 年 4 月～2020 年 3 月) BTEC 認定チャイルドマインダー講師(仙台ヒューマンアカデミー)(2017 年 4 月から 2018 年 3 月) 近畿大学豊岡短期大学通信教育部 非常勤講師(保育内容人間関係、保育内容健康、保育内容環境、乳児保育、乳児保育Ⅱ、健康(指導法)、環境(指導法)、人間関係(指導法)、保育原理、障害児保育、教育実習事前事後指導)(2017 年 7 月～) 石巻専修大学人間学部人間教育学科 特命教授(保育内容人間関係、幼児と人間関係、保育者論、乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ)(2018 年 4 月～2022 年 3 月) 岩手意見保育士等キャリアアップ研修 幼児期教育(2018 年 8 月)

岩手県保育士等キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援(2018 年 9 月)

宮城県高齢者活躍人材育成事業 富谷市育児支援講習(2018 年 9 月)

宮城県高齢者活躍人材育成事業 柴田町育児支援講習(2018 年 10 月)

岩手県保育士等キャリアアップ研修 幼児教育(2019 年 2 月)

岩手県保育士等キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援(2019 年 3 月)

宮城学院女子大学 非常勤講師(実習事前指導・巡回指導)(2019 年 4 月～2020 年 3 月)

専修大学北上福祉教育専門学校 非常勤講師(保育内容環境、幼児と環境、乳児保育Ⅱ)(2019 年 4 月～12 月)

岩手県保育士等キャリアアップ研修 幼児教育(2019 年 8 月)

岩手県保育士等キャリアアップ研修 乳児保育(2019 年 9 月)

日本発達支援学会 第1回大会 運営委員(2019年10月)

宮城県高齢者活躍人材育成事業 仙台市育児支援講習(2019 年 11 月)

学校法人北上学園 幼保連携型認定こども園アドバイザー(2019 年 4 月～2022 年 3 月)

姫路大学通信教育課程 非常勤講師(教育実習事前事後指導)(2020 年 4 月から 2021 年 3 月)

専修大学北上福祉教育専門学校 特別教諭(保育内容環境、幼児と環境、教育課程・教育方法論、子育て支援)(2020 年 1 月～継続)

日本コミュニケーション障害学会学術大会 事務局 大会委員(2020 年 5 月)

岩手県保育士等キャリアアップ研修(乳児保育)講師(2020 年 8 月)

福島県保育士等キャリアアップ研修(幼児教育)講師(2020 年 8 月)

岩手県北上市公立保育所スーパーバイザー(保育の進め方、新保育所保育指針について)(2020年8月)

福島県子育て支援員研修(南相馬市・会津若松市・白河市) 講師(2020年8月)

保育士等キャリアアップ研修(幼児教育・障害児保育) 講師(2020年10月)

日本発達支援学会 第2回大会 運営委員(2020年10月)

放課後児童支援員認定資格研修(宮城県登米市)(2021年1月)

福島県保育士等キャリアアップ研修(福島市・いわき市)子育て支援・保護者支援, マネジメント 講師(2021年2月・3月)

岩手県保育士等キャリアアップ研修(幼児教育・障害児保育)講師(2021年7月)

認定こども園専修大学北上幼稚園 スーパーバイザー(保育の進め方、子どもへの対応、職員間の連携)(2021年10月から12月)

岩手県認定こども園 子育て支援 講話((8月1日、8日、9月12日、11月28日予定)

石巻市子育て支援員研修(6月25日予定)

岩手県保育士等キャリアアップ研修(7月17日、18日予定)

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ ヤギ タカノ 氏 名 八木 孝憲	職 名 講師 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 修士(臨床心理学) (大学名)山梨英和大学大学院 (取得年月) 2008 年 3 月
--------------------------	-----------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
【講義】 グループ学習の推進と自己理解促進	2018 年～	グループエンカウンターや人間関係づくりトレーニングの実施により、コミュニケーション能力の向上を図り、また学生の自己理解を深めるために、集団葛藤場面を想定したコンセンサス実習を行っている。上記のようなグループ学習を通して、受容と共感を基礎とした対人関係の確立及び自己・他者を理解する姿勢を学ぶ。
【ゼミナール】 クリティカル・シンキング能力の獲得に向けた学習	2018 年～	問題意識を明確にし、他者に配慮でき良好な対人関係を維持していくことをベースとして、自身の推論過程を意識的に吟味する再帰的な思考を求めている。また、吟味する際には適切な基準や根拠に基づき、論理的で偏りのない思考を行い、問題提起及び課題解決に積極的に関与しうる卒業研究を推進している。
【学外学習】 さまざまな地域活動への参画	2018 年～	子どもを対象とした地域のイベント等にボランティアとして企画・参加し、学生の自主性をもとに地域課題への貢献と積極的な取り組みを推進している。
【表彰等】 授業評価監査役表彰	2018 年	授業評価において監査役表彰を受けた(福島学院大学)。

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
・教育相談におけるセルフアセスメントの重要性 ― 絵本セラピーワークの実践による自己理解・相互 理解の体験過程―	単	2022 年 2 月	仙台白百合女子大学教職課 程研究センター報 第 1 号 (1)			19―22
・里親が“親”になる過程と里父と里母の役割につ いての質的研究	共	2021 年 7 月	公益財団法人前川財団 2020 年度 家庭・地域教育助成(報 告書)	井出 智博		
・子どもの心身を育む自然体験活動	単	2021 年 3 月	福島学院大学 教育・保育論 集(第 24 号)			60―65
・社会的養護におけるグリーフケアの実態と展望― 全国児童養護施設への質問紙調査―	単	2021 年 2 月	福島学院大学附属心理臨床 相談センター紀要(第 14 号)			31―33
・保護者支援におけるレジリエンスとユーモアスタイ ルの効果検証	単	2020 年 12 月	福島学院大学研究紀要第 59 集			14―21
・児童虐待リスク要因の経済的側面に関する一考 察―マクロ計量モデル:尾崎(2019)と厚労省国民 生活基盤調査の結果からの分析―	単	2020 年 3 月	福島学院大学研究紀要第 58 集			32―41
・保育者の「言葉かけ」を再考する	単	2020 年 3 月	福島学院大学 教育・保育論 集 (第 23 号)			70―73
・自然体験活動を取り入れた保育の実態と効果― 青年期への影響に着目して―	共	2019 年 11 月	自然保育学研究 2(1)	井出 智博		24 - 36
・私の研究「児童養護施設で暮らす子どもたち」	単	2019 年 10 月	福島の進路(446)			50 - 52
・異年齢保育の実践がこどもの発達および社会性	単	2019 年 3 月	福島学院大学研究紀要第 56			51 - 63

に与える影響－保育者・保護者・地域住民による自由記述の質的分析－			集			
・家族的無意識と世代間伝達－個人と家族を支える臨床のいち視点－	単	2019 年 1 月	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター紀要（第 12 号）			43－48
・乳幼児療育の現況と課題に関する調査研究―事業所職員と保護者への質問紙調査から―	単	2018 年 8 月	発達障害支援システム学研究 17(1)			29－41
・陸前高田市適応支援教室「ジャンプスクール」の現状と課題	共	2018 年 3 月	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018：要旨集	菅野みゆき 吉家秀明		61－63

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ	発表年月(西暦)		発表場所			
・幼児期の発達過程における「嘘」の位置づけ－保育者の認識と関わりの側面から－	2022 年 4 月		全国保育士養成協議会東北ブロック 2022 年度第 1 回総会			
・子ども里山・自然保育活動推進の取り組み－ふくしま子ども里山教育・自然保育認証制度に向けて－	2022 年 2 月		日本自然保育学会第 6 回大会			
・幼児期の発達段階における他者との関係性や社会性に関する研究―幼児期における「嘘」に関する養成校学生の認識―	2022 年 2 月		仙台白百合女子大学人間発達研究センター第 2 回研究会			
・ある養育里親が養育里親になるまでのプロセス―TEM を用いた養育里親になることをめぐる心理的変化についての理解―	2021 年 12 月		日本福祉心理学会第 19 回大会			
・保育者養成校における絵本セラピーワークの実践 ―教育相談(保育相談)でのアセスメントとの関連から―	2021 年 10 月		日本幼児教育学会第 29 回大会			

・自然保育の現在と未来－養成校と実践園の取り組みから－	2020 年 11 月	日本自然保育学会第 5 回大会
・福島の子どもたちと自然保育の未来－実践者の声から－	2020 年 11 月	日本自然保育学会第 5 回大会
・児童養護施設におけるグリーフケアの実態とその必要性	2019 年 11 月	日本福祉心理学会第 17 回大会
・陸前高田市適応支援教室「ジャンプスクール」の現状と課題	2018 年 3 月	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理臨床学会	会員	2008 年 10 月
家族問題研究学会	会員	2009 年 5 月
日本福祉心理学会	会員	2016 年 10 月
日本自然保育学会	会員	2017 年 9 月
日本幼児教育学会	会員	2017 年 10 月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
・人間発達研究センター	2022 年	個人研究助成	自然保育を担う保育者養成校学生への教育プログラムの開発と実践	92, 500
・人間発達研究センター	2021 年	個人研究助成	幼児期の発達段階における他者との関係性や社会性に関する研究	79, 000
・全国保育士養成協議会東北ブロック	2021 年	個人研究助成	幼児期の発達過程における『嘘』の位置づけ－保育者の認識と関わりからの側面から－	100, 000
・財団法人前川財団	2020 年	家庭・地域教育助成	里親が‘親’になる過程と里父と里母の役割についての質的研究	900, 000
・全国保育士養成協議会東北ブロック	2019 年	個人研究助成	相談援助における保護者支援とバーンアウト予防－レジリエンスとユーモアスタイルの観点から－	100, 000

・科学研究費助成事業	2018 年	研究活動スタート支援	児童養護施設で暮らす子どもへのグリーフケアの開発	2, 080, 000
・財団法人前川財団	2016 年	家庭・地域教育助成	地域包括的な異年齢保育の実践による家族機能の代替可能性に関する研究	870, 000
・公益財団法人マリア財団	2016 年	研究助成	乳幼児療育支援における自治体と民間事業所との連携と協働	300, 000

3. 特記事項

【非常勤講師】

- ・福島大学人間発達学類「社会的養護」(2022 年 4 月－現在)
- ・東北生活文化大学短期大学部「子ども家庭支援論」(2022 年 10 月－)
- ・桜の聖母短期大学「保育の心理学」(2022 年 10 月－)

【学外委員】

- ・(公社)福島県森林・林業・緑化協会 子ども里山教育活動推進検討会 委員(2020 年 4 月 - 現在)
- ・東海心理療法研究会 幹事(2016 年 4 月 - 現在)
- ・アカデミアコンソーシアムふくしま キャリアサポーター制度 WG 委員(2020 年 4 月 - 2021 年 3 月)
- ・福島市 保育士の働きやすい職場づくり事業 委員(2020 年 4 月 - 2021 年 3 月)
- ・日本自然保育学会第5回大会 実行委員(2020 年 2 月 - 2021 年 2 月)
- ・静岡県臨床心理士会 協力委員(2010 年 4 月 - 2016 年 3 月)
- ・静岡県教員採用試験 面接委員(2013 年 4 月－2015 年 3 月)

【社会貢献活動】

- ・IFCA(インターナショナル・フォスターケア・アライアンス) サポーターアダルト 運営参加・支援(2020 年 4 月－現在)
- ・福島県教育委員会緊急時派遣カウンセラー 運営参加・支援(2020 年 4 月－2021 年 3 月)
- ・子ども虐待防止オレンジリボン運動実施校 企画・運営参加・支援(2020 年 4 月－2021 年 3 月)
- ・福島県「子どもと青年の異世代交流事業」 助言・指導(2020 年 4 月－2021 年 3 月)

【学内委員】

- ・入試広報委員会委員・大学広報室委員・自己点検・評価委員会委員・人間発達研究センター(研究員)研究活動推進委員

【資格】

- ・臨床心理士・専門社会調査士・公認心理師・LNTトレーナー

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ ッダ アヤコ 氏 名 津田 綾子	職 名 助教 人間学部 人間発達学科	取 得 学 位 修士 (大学名) 宮城教育大学(取得年月)2022 年 3 月
--------------------------	-----------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1)過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
保育者の専門的資質を育成するためのマルチモーダル分析用情報機器とアプリケーションの活用 —幼児の製作遊びにおける保育者の役割について—	単	2021 年 3 月	宮城教育大学情報活用能力育成機構研究紀要 第 1 巻			19 頁-27 頁
幼児の社会的スキルと遊びの夢中度(2) —TEM と SRA を用いた混合研究法—	共	2020 年 5 月	日本保育学会第 73 回大会集録	郷家史芸 藤田清澄 石田淳也 伊藤恵里子 保木井啓史 津田綾子		論文集 CD－ROM 907 頁－908 頁

幼児の製作場面における相互作用について —製作過程の幼児の「見る」行為に着目して—	単	2020 年 5 月	日本保育学会第 73 回大会集録			論文集 CD－ ROM 909 頁 －910 頁
--	---	------------	------------------	--	--	--------------------------------

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本保育学会 日本子ども社会学会		2019 年 8 月 2021 年 6 月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

--